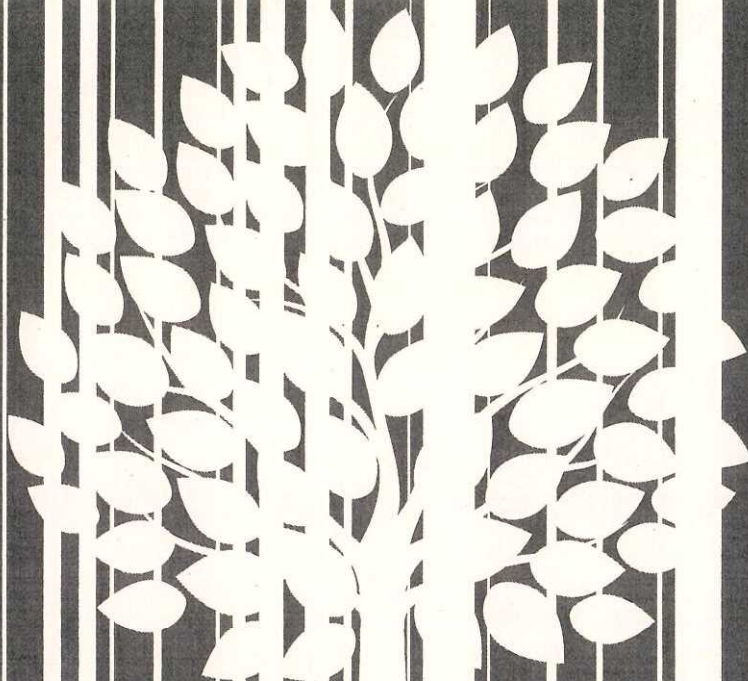


第61回 旭川市PTA研究大会 集録



日時 令和3年11月14日(日)

会場 旭川市公会堂 旭川トーヨーホテル サン・アザレア

主催 北海道PTA連合会 旭川市PTA連合会

主管 旭川市PTA連合会北部ブロック

旭川市立近文第二小学校PTA

後援 北海道教育庁上川教育局

旭川市教育委員会

「旭川市教育の日」推進協議会

旭川市小学校長会

旭川市中学校長会

旭川市小中学校教頭会

asahikawa pta 2021

目次

研究大会を振り返って ▶ 01

旭川市 PTA 連合会 研修部長 伊藤 加津則

全体講演 ▶ 02

「ユネスコデザイン都市・旭川の未来」

講師 喜多 俊之 氏 織田 憲嗣 氏 渡辺 直行 氏

分科会 ▶ 27

【第1部会】 消費者教育
悪徳商法に気を付けよう

【第2部会】 学校・地域の協働
地域学校協働活動 ～学校を核とした地域づくり～

【第3部会】 メンタルヘルス
【ココロとカラダが笑顔でつながる「ゆったりゆるヨガ」】
～コロナ禍の今だからこそ届けたい、ココロを整えるヨガの可能性～

【第4部会】 スポーツと心の教育
「ありがたい自分」 ～なりたいじゃなくてありがたい自分～

アンケート集計 ▶ 40

編集後記

旭川市 PTA 連合会 副会長 菅原 達朗

「研究大会を振り返って」

旭川市 P T A 連合会
研修部長 伊藤 加津則

本年度、11月14日にコロナ禍の状況にはありましたが、旭川市 P T A 研究大会を開催することが出来ました。この状況下でも我々が出来ることを前向きに話し合いながら多くの人の協力を得て進めてきました。その中で Z O O M 会議や講演会の講師の依頼等、部会の担当者の尽力のおかげで進められましたことに感謝申し上げます。

今回の大会テーマは「かわりゆく新時代（いま）わたしたちがかえていくこと」をスローガンに次世代を担う子供たちの豊かな心を育み、私たち大人もより良く変わるために企画を進めました。

全体講演に「ユネスコデザイン都市・旭川の未来」としてデザイン都市旭川家具、世界に発信出来ることが多々あり、まだ皆様の知らないこともあり、更に旭川市民として誇れる都市になる展望を感じる講演となりました。

全体講演会終了後、四つの分科会に分かれ移動となりましたが、公会堂、サンアザレアホール、トーヨーホテルと準備や移動など皆様に不便等お掛けした点もありましたが、皆様から温かいお言葉や支援を頂き有意義な分科会になったことに改めてお礼申し上げます。

第1部会「悪徳商法に気を付けよう」では寸劇で楽しく解説してくれました。第2部会は「地域学校協働活動」を分かり易く講演して頂きました。第3部会は「ゆったりゆるヨガ」でココロとカラダを整えることは、コロナ禍においてとても有意義な時間でした。第4部会は「ありたい自分」をテーマにプロビーチバレーボール選手による経験をふまえ、どんな自分でいたいのか熱く講演して頂きました。かわりゆく時代に皆様がどのように捉え変わっていくかヒントを頂けたのではないのでしょうか。

最後になりますが、この P T A 活動が子供たちとご家族、教職員の皆様に益々の発展をご祈念致します。1年間ありがとうございました。

ユネスコデザイン都市・旭川の未来

講	師	喜多 俊之 (きた としゆき) 氏 株式会社喜多俊之デザイン研究所 代表
		織田 憲嗣 (おだ のりつぐ) 氏 東川町デザインアドバイザー
		渡辺 直行 (わたなべ なおゆき) 氏 株式会社カンディハウス 相談役
		あさひかわ創造都市推進協議会 会長
司	会	旭川市 PTA 連合会 研修部長 伊藤 和津則

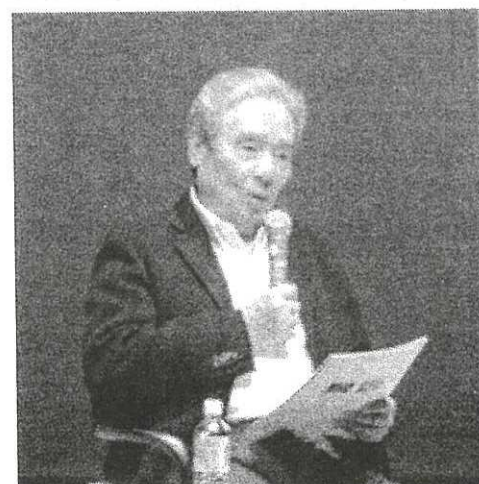
森の恵みを背景に技術とデザインを磨き海外販路を広げる旭川家具をととして地域の未来を考えます。渡辺直行氏がコーディネーターとなり、喜多俊之氏、織田憲嗣氏とのトークディスカッション。

司 会

講師のお三方をご紹介します。まずお一人目は喜多俊之様でございます。1969 年よりイタリアと日本でデザインの制作活動を始め、イタリア・ドイツ・日本のメーカーから家具・家電・ロボット・家庭日用品に至るまでのデザインで、多くのヒット製品が生まれており、作品の多くがニューヨーク近代美術館、パリのポンピドゥー・センターなど、世界のミュージアムにコレクションをされております。

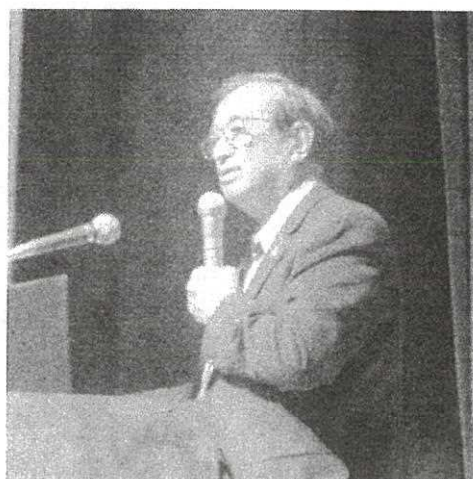


お二人目は織田憲嗣様でございます。椅子研究家、東海大学名誉教授、東川町文化芸術コーディネーター。大阪芸術大学卒業後、高島屋宣伝部にイラストレーター、グラフィック・デザイナーとして勤務。1994 年から北海道東海大学芸術工学部教授となり、特任教授を経て 2015 年まで務めたのち現職に至ります。



お三方目は渡辺直行様でございます。東京造形大学卒業後、インテリアセンターに入社。カンディハウス社長、会長を経て、令和3年3月に相談役。あさひかわ創造都市推進協議会会長といった要職に就かれております。

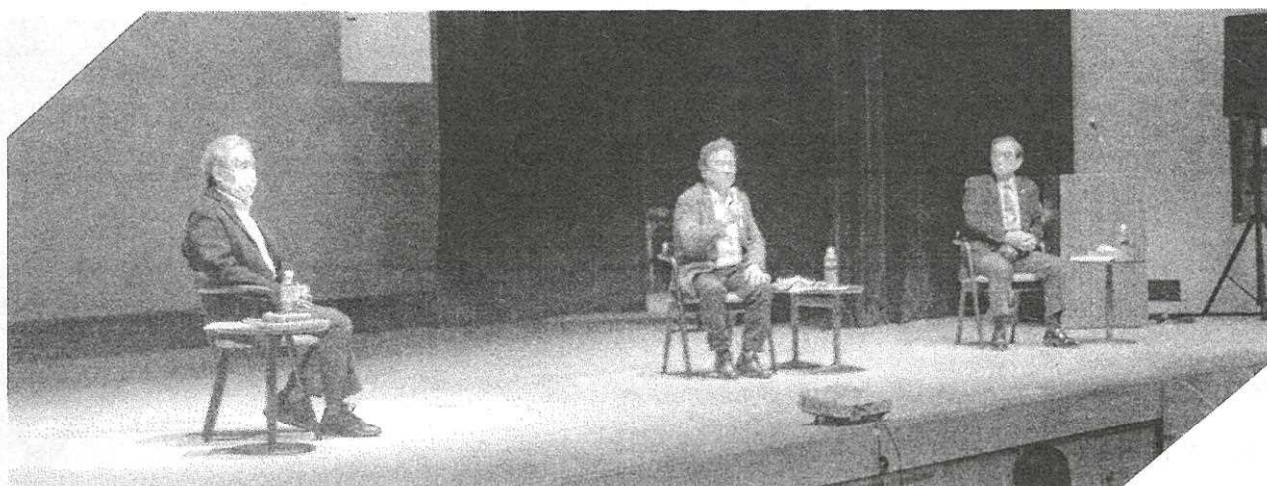
本日の公演は渡辺直行様がコーディネーターとなり、喜多俊之様と織田憲嗣様とのトークディスカッションとなっております。演題は「ユネスコデザイン都市・旭川の未来」。森の恵みを背景に、技術とデザインを磨き、海外販路を広げる旭川家具をとおして地域の未来を考えます。それでは、渡辺様よろしくお願いいたします。



渡辺直行氏

マスクを外させていただきます。あらためて、皆さんこんにちは。カンディハウスの相談役の渡辺と申します。今、司会の方からお話がありましたように、今日はデザインという枠組みの中で、お二人を中心にお話をさせていただこうと思ってます。2019年の10月の末に、旭川市がユネスコ創造都市ネットワークのデザイン分野で、加盟認定を受けています。つい先日もデザイン都市に新たな仲間が3都市増えて、現状でいうと世界にデザイン都市は43都市あります。創造都市というのは、後でちょっとお話ししようと思うんですけれども。創造都市全部でいうと、7つの分野で295都市です、現状で。デザイン都市がその中で43。日本は旭川の他に神戸と名古屋がそれぞれデザイン都市。したがってユネスコのデザイン都市は日本に三つという事になるわけです。ですから今日は、それを記念してということもありまして、私個人的にも長いお

付き合いをしていただいている、会社の家具のデザインとかですね、もう40数年のお付き合いをしていただいている喜多俊之さん。それから、織田さんも30年くらいですかね。お二人とも大阪なんですけれども、織田さんはご自身と後でご紹介いただく、織田コレクションと共に旭川に来ていただいている。今は東川にいらっしゃるわけですが。ご自宅は東神楽ですかね。ということで、そろそろ話を進めさせていただきたいという風に思うんですけれども。まずは喜多俊之さんにお話をさせていただいて、それから織田憲嗣さんにお話をさせていただいてから、その後に私の方から少しユネスコの創造都市について触れさせていただいて、最後に3人でちょっと話をしよう、そんな段取りで進めさせていただきたいという風に思っています。本日は本当にありがとうございます。ということでまず、喜多さんからお願いいたします。



皆さんこんにちは、喜多俊之でございます。旭川がユネスコ・デザイン都市になる。これすごいことなんです。特にデザインという言葉。皆さんずっと耳慣れてはいらっしゃるけれど、一体なんだろうと思っていらっしゃる方も多いと思いますが。ちょっとここで写真を。

長年私デザインの仕事をしてきまして、ほぼ半世紀、50 数年になります。ちょうどイタリアへ行きましたのが 1969 年から行きまして、デザイナーになろうと思って行った訳ではなかったんですが、たまたま行く機会がありまして。日常の暮らしぶりを、どうしても見たいという風に思いまして。同じ戦後を迎えて、イタリアと日本というのはとても近いようで遠いようで。でも行ってみるととても近い国だったんですけれども。

そんなことでデザインという言葉がその形という前に、機能性や安全性、それから人への思いやりや経済性や全部のことが入ってる言葉で、それをどうバランスを取りながら、モノにしていくかというのは企業の仕事でもある。デザイナーはそれをバランス取ってどういうモ

ノに仕上げていくか、というようなことなんだと理解しておりました。ですから、まさにデザインというのは使う生活者と、それから経済産業の潤滑油みたいなところがあるんじゃないかなという風に思っております。そういうことで、益々デザインという言葉が、世界で大きく脚光を浴びるようになったのはそういうことなんですね。素敵な暮らし、そして経済産業の要の言葉だという風になってきたわけです。ここにちょっと写真がありますが、これはソウル市のデザインセンターなんですが、野球場ひとつ半ぐらいの大きさで。これがザハハディドさんのある建築設計なんです、ちょうどオリンピックのスタジアム、東京のです。最初は設計された方ですね。それは実現しませんでしたけれど、いち早くソウルでこういうデザインセンターがあって。これがすごい建築で、これが出来て当時のソウルの市長ですね。この写真と先程出てきたのが、2 年 3 年ぐらい差がありまして。ぜひデザインの街にしたいです、デザインの国になりたいというようなことをおっしゃっていました。

それで出来上がって。これがエントランスなんですね。階段もあります。もちろんエレベーターもありますし、そこに世界で成功したデザインの製品。いわゆる一般の製品が、これはイタリア製で1960年代70年代頃のまだ携帯電話の出来前ですが。こういう電話、それからテレビのデザイン、ラジオのデザイン、まあいろいろ諸々の日用品。イタリアモダンていうのはファッションだけじゃなくて、こういう風に家具とかにも世界に轟始めて。その時に私はちょうど1969年ですが、行きて。どうしてこんなモノが出来ると。そしてみんな使えるモノ。日常の暮らしなんかには使えるモノで、皆さんの生活の中の夢の形をどんどん具現化して。それが産業経済に役に立っているという事で、デザイン立国イタリアがどうして出来てるんだ。そんなことで行ってきまして、そういう当時のコレクションがソウルの今の建物の中にコレクションされています。

そんなことでアジアが今、デザインというのを官民挙げて、官民が全部挙げて取り組みまして。これは中国内陸部の住宅の建設なんです、この写真が今から10年ぐらい前の写真なんです、この中の間取りですね。これぐらい、大体130平米前後が平均でしょうかね。そんなことでこれが間取りです。イタリアなんかドイツなんかもだいたいこんな間取りな

んですが、シンガポールの120平米くらいで一般のマンションですね。こんなことで、とてもイタリアの平面とよく似てますが。こんなことで、家にお客様が来ると家族だけのじゃなくて、家はお客様が来て、いわゆる人生の舞台なんだというのは暗黙のね、そういうことが以前からありますが。それを益々、近代化させて産業化させて、現在の中国の様子があ



りまして。なかなか日頃、本当の中国の様子が日本に入ってきて来ないので。たまたま私が中国の西岸（せいがん）で、将来デザインの国になりたいんだけど、何かちょっとアイデアを下さいよということで、何年か顧問したことがあるんですが。最初は全くデザインという感じがしなかったんですが、たった数年後にはこれ皆さんインテリア・デザイナーなんですね。ソンミン系デザイナーの会合の時です。こんな感じでした。これが10年ぐらい前、8年ぐらい前ですね。そうやって家がああいう風になりますと、家電がまず良くなりましたね。これは冷蔵庫なん

ですが、最近出ている冷蔵庫なんです、これ扉の1枚がこういう風にですね、全部温度から時間から中身も写真で撮ったり、すぐスマホで写し替えられたりとかという事で。まずビジュアルのこういったモノは冷蔵庫に付きまして。それから冷蔵庫を開けますと、後ろがパツとこう光るんですね。奥の物もみんな見えるので、いつ入れたかわからないっていう物が、心理的に無くなるみたいな事も、デザインの中に入れて。下が零下20℃15℃10℃とかいうようないろんな引き出しがあって。ということで、これが大量生産して、今ありましたああいうアパートにも入り始めて。そういうことで、富裕層の一部じゃなくて、大体サラリーマン層の暮らしにターゲットを当てているという感じですね。それから、湯沸かし器ですね。ガス湯沸かし器もこういうデザインです。このデザインなんかは女性のデザイナーがやったんですが。スタッフとして外部から指導して、これは大ヒットしたんですね。こういうデザイン志向のモノが売れる社会に変わって、空港なんかでは国内線でもこういうキッチンの宣伝ですね。これ写真は実は10年ぐらい前の写真なんです。早くから暮らしという事について、随分力が入りまして。ですから家具なんかもそうなんです、相当これ地方都市の家具屋さんなんです。中国製も売ってるし、北欧のも売っているという事で。週末にはここでピアノコンサートをやってると

いうような。これが地方都市の中国の全部じゃないですけど、こういうこともあるという。そういうことですね。これで8年ぐらい前の写真ですね。それからこれは内陸部の重慶の近くの街なんです。こういう風に街づくりして、オフィスそれから住まい、それから今まで何にもなかったところに、忽然と街の中心をつくるというのをやっていったんですね。大通りも作って、大通りの道の真ん中にこういう風に公園のようにして。地方都市に行く道路を走ってる。これが今の中国の風景の近代化の様子だという事で。車も中国製もあれば、日本車もあれば、海外、ドイツの車もありますけど、中に中国製の車も入ってまして。最近は電気自動車が随分増えています。これは上海ですがこんな感じですよ。新幹線はほぼ今、日本の8倍ほどの量が走っていて。これ駅ですね。で、この駅にここにちょっと漢字で書いてありますけど。要はもうすぐ電車が来る時に、それをめがけてこの席に着いておけば、電車が来た時にそのまま電車にサッと乗って行ける。従来のように混雑して大変という駅の姿は、ほとんど無くなったんですね。こんな感じです。これは虹橋駅で、いわゆる中国の上海の新幹線です。それからこういう時計も見やすいし、行き先もしっかりと分かりやすくして、時間にきちり定刻通りに来ますね。これはたまたまあちらで企業が席を取ってくれまして、招待を受けた時に。これはファーストクラ

スなんです、時速 300 キロで上海から昔の長安の近くまで行く時に、5 時間ぐらいかかるんですが。それは寝て行けるんですね。これもボタンひとつでほぼフルフラットになる。そんなことで、家具関係も家庭日用品も、こういう見本市がありまして。これ見本市の様子です。そしてそのビジネスマンたちのファッションがこんな感じですね。どこか日本と変わらないくらいにまで今なっております。それからこれが見本市の様子ですね。来られる方はそういう感じでファッションももうほとんど日本と変わらない。

そしてこれは革ですね。革産業も相当発達してきまして、ドイツ・イタリアの技術を提携して、大量に表皮する家具の背景を支えている。これが中国の家具屋さん和イタリアの家具屋さん和組んで、これが一般のサラリーマンの、本当に素敵に暮らしたいという人は、こういうのを買えるようなことになってるんですね。

そんなことで、デザインもそうですし、モノづくりも結構、目を見張るものがあります。それが一部のものではなくて、ほぼ全面的こういう風にこれまで伸びてきましたね。この様子をちょっと。この写真がここ 10 年前から最近までの写真なんです。これは上海に本社を置く中国のオフィスメーカーの家具です。これも売れている家具ですね。こんな感じで様変わりしております。でこれに電子化で、いわゆるインターネットの会議室。そういうのでありますけれども、そういうこ

とを見習ったというのは欧米全体もそうなんです、特にイタリアの生活改革っていうのは凄かったんです。それはやはりアジアにもその波が来まして。これはミラノ・デザイン・ウィークということで、市を挙げてデザイン・ウィークをミラノでやってるところです。そしてこれは上海でのミラノのデザイン・ウィークをやったんですね。毎年やってますけれど、これはミラノ市内の市庁です。やはりデザインのこういったイベントをやる。オープンの日の様子ですがとても賑わってるんですね。

デザインというのは先程申し上げたように、暮らしと経済産業の中核ですので、市としても相当力を入れているというその様子ですね。これは漢字も書いてあります。これが先程のデザイン・ウィークの上海でもやってるんですね。今、アジアが変わってきているというのは今後、時間の関係で少しでしたけれども。

やっとなですね。これが旭川がこれからデザインのコンクールをしようということで、家具コンクールの第一回目の時の面々です。その時もすでに、ミラノからも審査員の人たちがやって来まして。これが当時の写真です。そこから現在に至る。ユネスコのデザイン都市になるまで、皆さん相当発信してきたんですね。

そういう面では日本の中で、旭川はとても成功している市の一つだという風に見られています。これは審査の時の様子ですね。もう 40 年以上前の写真ですけれ

ども、大変リアルでまだ残っておりまして、今日ぜひ見ていただこうと思ひまして。それからIFIの大きな会合があって、これもデザイン都市の旭川という都市のベースになったんですね。会長さんが来てやりました、世界から。旭川の企業、家具を中心ですけども、大変力が入った様子。これは日本、都道府県がありますが、一番成功してるんじゃないかという風に、私が外部から見て思います。これはそういう記念すべき日の展示会。数年前ですけどもとても良かったですね。

それから、これからの製品もやらなくちゃいけないと、世界に焦点を合わさな



いといけないなというように考え方のお持ちの企業が多くなりまして。こういう試作品なんかも当時、実験的に作りまして、これメイド・イン旭川で世界に。ホテル用の家具で、試作だけでしたけれども。ここにアメリカやミラノから来ていたりして、決して彼らにも負けないようなものが挙がっていたと思います。

「家具の街旭川」の、世界に向けてのコンクールやそういったことが、ここへ来て相当定着し始めているんです。あとは

クオリティーをどう維持するか。1990年代には北欧の国々、それからフランス、ドイツ、イギリスの若者の登竜門は実は旭川だったんですね。若者がデザイナーに将来になりたいという時には、コンクールに出すのは旭川で成功することだったんですね。今そこで賞をもらった人がアジアでデビューして。フランス人の建築家ですけど、シンガポールの国立大学の教授になって。活躍している人は、この方は旭川が発掘したと言ったら言い過ぎですけど。そんな方なんです、そんな事例もあります。

そういうことで、若い日本の地元の若いデザイナー達が、これからとても活躍できるレールはほぼ敷かれてきたというのが、私なんかの外から見た印象ですね。これは2019年に旭川の企業が、ミラノの大きな国際見本市がありまして。30万人ぐらい来る国際見本市。その時に市内で展示会をしました。私もちょっとその一部を担当したんですが、その時の様子ですね。旭川の銘酒を皆さんに振る舞いまして、口コミですごくい沢山おいでになったんですが。その時の向こうの雑誌の広告にこれが載りまして。ヌプリというカンディハウスさんの製品だった。これ私がデザイン担当したので。その時、唯一北海道のミズナラは、デンマークの有名な家具は、ほとんどナラ材が北海道の製品だったんです。1950年代の中頃から今まで。北海道の企業でそれを作れる企業が出てきた以上は、北欧には絶対負

けたくないなということで。ひとつの未来の指針としてそういうことも、デザインする側からもね。この椅子に関しては、北欧にない構造にするためには同じ構造かなと。そうじゃなくて、これは北海道でしかできない構造をやらないといけないということで。今3人が座ってる椅子はこれなんです、今画面に映っているヌプリのダイニングチェアです。これはこの構造は世界にない構造でして、旭川発の構造なんですね。これは過酷なテストにも合格していますので。これからこういうこのモノというよりは、そういう考え方、旭川がどういうことができるのかということ、もう一度若いクリエイター、若い経営者の人達が目標にしながら、次の時代に伝導していくことはとても大事だし、今日もこういうフォーラムがありまして、とてもみんなで何て言うんでしょうか。フォーラムと言いますけれども、雑談兼ねた何かお話しというのはとても重要で、これを皆さんと共有できる事も重要かと思っております。

そんな事で、その後現地の雑誌の記事ですね。旭川、ほとんどが旭川、旭川と出ていましたけれども。私としては旭川のイメージ、世界のイメージというのがあって。森と山の豊かな、ヌプリというのはそういうところから来て。こういう風にして旭川のイメージ、旭川の椅子。そういったこともこれから重要じゃないかと。北海道発ですね。そんな事でこういう写真。当時イタリアで撮ったやつで

すけど、ちょうど面白いのがあったので、今日ちょっと皆さんに見てもらうという事で。ひとつのですね、外国のモノがシンボルじゃなくて、地元のモノをシンボルにして、みんなもっとそれを拡大させていこうと。この人は私がイタリア行って40年くらい前に出会った人なんです。この人は木工の木の家具の会社の社長さんなんです、ご本人が盛んに私に初めて会った時から、私の先生は日本の職人さんなんです。どなたですか？どなたではないんです、ここにあるようにこういうのを作った日本の人達が私の先生です。ということで、結局彼は日本に帰ってきた時に木工所をご覧になって、帰りに新幹線の中でシャシャシャッと、一緒に来た友人と一緒にアイデアスケッチを作ってるんですね。そのアイデアスケッチから生まれた、こういう構造のテーブルが大ヒット製品になって。メイド・イン・イタリーでニューヨークやらドイツやら。その時のきっかけが、日本に彼らが来て小さな木工屋さんに入って建具や何かの会社を見まして、それからインスピレーションで。この端の方のちょっとプラスになってる。これが脚で上が天板なんです、こんなテーブルの角ですけども、とにかく日本というので、インスピレーションを受けてメイド・イン・イタリーでヒットさせた、というような事例もあるということで。

日本は木の国でもあります。そんなこともあって世界の人達から見たら、本当

喜多俊之氏

に憧れの事がいっぱいあるんですが。いよいよ私達がそれを本格的に、世界に発信する時期に来ようとしております。アジアは大きなマーケットに変貌しております。先程のアジアの中国やら韓国の映像もありましたように、相当進んで参りまして。彼らの社会が特に生活に力を入れてるんですね。生活・教育それと並行して、全体的にバランスのいい暮らしということを皆さん考えています。そうい

う中からバランスの良い製品ができる。調和のとれたモノができるということですね。次の時代が今に移行しようと、そういうところにあるという風に思います。

大変短い間ですけれども世界から見る旭川と、旭川から見る世界と。それから、これからの私達の方向性とかという事が何かヒントになればという事で、皆さんにぜひ見ていただきたいと思った次第です。どうもありがとうございます。

渡辺直行氏

はい、喜多さんどうもありがとうございました。アジアからヨーロッパ、旭川と。

それでは次に、織田さんよろしく願いいたします。

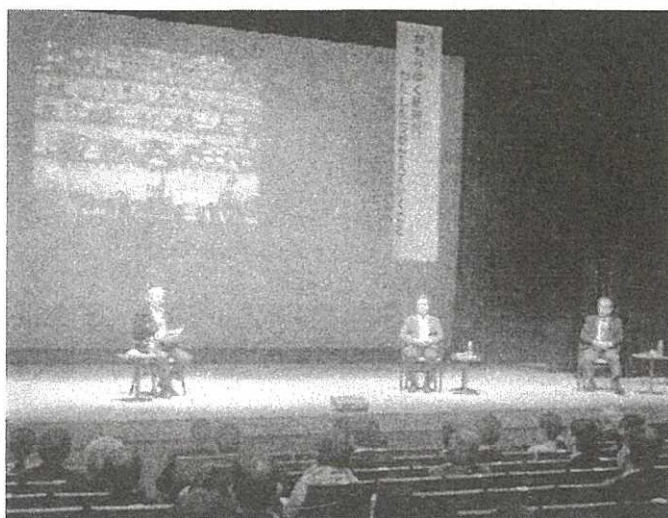
織田憲嗣氏

織田でございます、よろしくお願いいたします。喜多さんは今、沢山の画像をお使いになりましたけれども。私の方は後ほどごく数枚の画像をお示しします。主に口頭での話になりますので、眠くなるかもわかりませんが、しばらくご辛抱ください。私が今、目指しているのは、この地域に日本で初のデザイン・ミュージアムを作りたい。何とかこの地域に作りたいという思いで今、28年目になります。関西からこちらの方に移住して参りました。なぜ先進国の日本がデザイン・ミュージアムというものを持っていないのか。ここに少し考えてみたいと思います。

実は日本にはたくさんの美術館がございます。この旭川もですね。道立の旭川美術館、あるいは旭川市立の彫刻美術館

とか、雪の美術館とか、国際染織美術館とか。美術館と名のつくものはいくつかあるんですけれども、デザイン・ミュージアムというのは、実は日本には名古屋に小さな100平米ぐらいの小さな施設があるだけです。あと長野県に昔の蔵を改装して、いろいろな家電メーカーから過去の旧式の家電製品を寄贈してもらって展示をしている、デザイン・ミュージアムとはとても呼べないような施設があるだけです。ほとんどがアート中心の美術館なんですね。なぜ日本にデザイン・ミュージアムが無いのか。欧米の先進国は全てあります。今、喜多さんのご紹介があったソウルだけでも今3つ以上あるかと思います。上海にもありますし、台湾でもデザイン・ミュージアムを作るという話を聞いてます。

シンガポールにもあります。アジア諸国でも次から次にデザイン・ミュージアムが出来ております。しかしながら我が日本には無いのですね。喜多さんのように世界に通用する国際的なデザイナーがいて、そういう方が素晴らしい製品をデザインして、海外に輸出し海外で製品化されている。それなのにどうして日本にデザイン・ミュージアムが無いのか。



これはあるボタンの掛け違いがきっかけなんですね。アートは文化庁が管轄官庁です。それに対してデザインというのは経産省なんですね。経済産業省です。なぜ経産省なのか、不思議でしょうがないんですけれども。戦後間もない頃、日本がとにかく経済力をつけて戦後の復興を果たし高度成長期に入る時に、デザインというものがその一つの牽引役を担って欲しいという思いで、経済産業省がデザインというものを管轄するようになりました。そのためにデザインというのは、定義付けしますれば、習性があって、非常に高貴なもの、崇高なるもの、そんなふうな捉え方をしている節があります。

これに対してデザインというのは日本に於いては経産省が管轄していますから、数値でのみ、その評価をしてきたんですね。これがいくらで何百万個売れたとか、そういう数値でのみの評価に終わってしまったんです。ですから、デザインの持つ芸術性であったり、機能性であったり、あるいは生活文化に及ぼす影響力の大きさ、そういったものをほとんど評価してこなかったんです。そのためにデザインイメージがいまだに無いんです。

三宅一生さんとか、それから国立西洋美術館の館長されていた青柳さん。その後、文化庁の長官になられたんですけれども。青柳さんと三宅一生さんが対談で、作ろうよ日本に国立デザイン・ミュージアムというテーマで対談をして、長くインターネットでも放映されておりました。しかしながら未だに日本ではそれが無いんです。今、計画としていくつか話題に上っているところがありますけれども。残念ながら、その器だけを作ろうとか、そのコレクションが無いんです。私は20代の頃から、どうして日本にデザイン・ミュージアムというものが無いのか、不思議でしょうがなかったです。半世紀以上前にヨーロッパに行って、そしてそのデザイン・ミュージアムとか工芸博物館とか、そういうところを見て、どうして日本に無いんだろうと思って。で社会人になってから、高島屋の宣伝部に入りまして。百貨店ですから、ありとあらゆるモノを扱っております。そういう中で

新人だった私は、宣伝部に海外のインテリア雑誌が沢山ございましたので、そういう中から繰り返し登場する椅子に興味を持ちまして。お給料の中から一脚ずつ、そういった名作と言われるようなものを買いはじめました。まあ収入がそんなにあったわけではないわけですから、分割で買ったりとか。随分苦労して、少しずつ少しずつそれが増えていって。100 脚ぐらいになった時に、こんなことをやっていいんだろうかという、ちょっとした疑問を感じまして。これからは研究者の立場で、椅子というのにも研究してみようと。そして同時に椅子も日用品ですね。生活の中で使う道具です。ですから、20 世紀に生まれた美しい日用品というモノも、研究対象にしようということで。研究室を私が独立して、イラストレーションの事務所を営んでおりましたけれども。同じビルの中に一部屋、営利を生まない、利益を生まない部屋を一つ借りて、チェアーズという研究室を作りました。そこで椅子の研究を始めて、今では 1400 種類を超える椅子が私の手元に集まりました。これらは実はつい先日、東川町に全部寄贈しました。

今、日常生活で使っている 20 世紀の銘品と言われるようなプロダクトデザイン。テーブルウェアであったり、カトラリーであったり、木のおもちゃであったり、家電製品。そういったモノそれから参考文献を入れること数万点あります。こういったモノもすべて東川町に寄贈するこ

とが決まっております。何とか後の世の若い人達の為に、貴重なデザインの文化遺産というものを残して。そして、そこに行けば本物が見れるということ。今、若い方はほとんどの方がインターネットとかスマホで、バーチャルでモノを見ておられる方が非常に多いですね。残念なことに日本にもそういうミュージアムが無いものですから、本物を見るという機会が極めて少ない。そういうモノを販売してるところでも、自由にそれを使うことは許されませんので、なんとかそのデザイン・ミュージアムで本物を展示する。あるいはルーツとなったようなモノ、あるいはオリジナルのモノをそこで展示する。そういう実物から得られる力というのはバーチャルでは得られないものがあります。

そういうデザイン・ミュージアムっていうモノが、この地域にもしあったとすると、随分環境が変わって参ります。何年か前にソウルのある小さな美術館で、デンマークのデザイナーの展覧会をやりました。5 か月間だったんですけれども、135,000 人入りました。小さな美術館です。床面積だけでいくと、うちの延べ床面積とほとんど同じぐらいの美術館ですけれども、最終日には 1 日 5,000 人を超えました。その同じ内容で、札幌のある市立の美術館で、同じ内容でやったんですけれども。そちらは 3 カ月間で 4,000 人台でした。この違いは一体何なんでしょう？ソウルでやった時には、デンマークの皇

太子殿下ご夫妻もお見えになりました。そんな風に韓国はデザインというものを、国家戦略の中心に据えているわけです。資源が無いという意味においては、日本も韓国も同じです。ですけれども、韓国はもう 2 周ぐらい先を行ってますね。中国もはるかに日本よりも先へ行っています。今回コロナということで、日本の抱えている問題点というのが、たくさん身にしみて思い知らされました。日本は先進国で、一流の国だと思っていたんですけれども。未踏の、未踏国だなということを実感させられました。何とか後に続く若い人達には、今のファストなモノが中心の生活文化というものを、少しずつ改めていって。ファストなモノ。例えば、100 円均一ショップであったりとか。企業名は申しませんが、ファストな家具、あるいはファスト・ファッション。そういったものがほとんど若い人の生活の中心にあると思います。そういった生活文化というものを少しずつ変えていくこと。本当にいいモノを長く使い続けて、最後の最後まで使い切るという。そういう価値観、考え方というものを一人一人が持つようになれば、国連が掲げる SDGs の問題もクリアできると思います。

実は私、今日持ってきている腕時計がありますけれども、52 年前に買った腕時計を未だに使っております。50 年以上使っているモノが、私には沢山あります。結婚してちょうど私は 50 年になるんですけれども、結婚した時のカトラリーなんか

もいまだにを使っております。ランチョンマットなんかも、当時のモノを大事に大事に使っています。本当に沢山のモノが 50 年以上使います。私がかつてこちらに引っ越してきた時に。まだ引越しの荷物を解くことができなかった時に、百貨店であるメーカーの安いモノです。誰もが知っているブランドですけれども、肌着を買ってきて 3 回か 4 回洗濯したら、もうすぐネックが伸びてしまってダメになりました。でもそれで手放してしまったら、そのメーカーの戦略に乗ったことになると思って、汗をかく作業をする時には必ずそれを着ようと思って。家内に絶対に捨てないでくれということを書いて、つい数年前までほぼそうですね 30 年以上 T シャツを着続けました。雪かきとか草刈りの時に使うようにして。それでももう洗ったら、本当に濡れた新聞が乾いた時の様な、パリパリの状態になってました。それでもういいからってということで、処分したんですけれども。どうも寿命が短いモノがあまりにも身の回りに多いように思います。そういったモノをもう少し見直すという意味でも、この地域に本物・オリジナル・ルーツ、そういったものを展示するデザイン・ミュージアムというものが出来れば、日本国内だけでなく世界中から来てくれます。

韓国の展覧会で一番沢山来られたのは 20 代 30 代です。この旭川美術館の入場者の顔を見ていると、ほとんどが 60 代 70 代です。デザインというのは将来のこ

織田憲嗣氏

とを指す意味を含んでいます。ですから、今後の若い子たちがそういうデザイン・ミュージアムで、何らかの影響を受けて、暮らし・生活、そういうところにもっと

もっと興味を持って生活文化というものを高めていただけるようお願いいたします。
ありがとうございました。

渡辺直行氏

スライドを用意していますけれども。

織田憲嗣氏

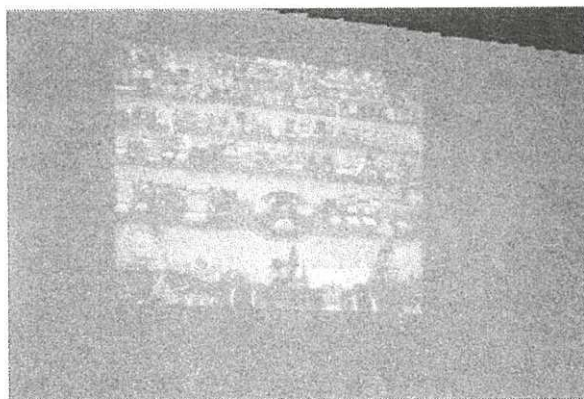
1分ほどで。

渡辺直行氏

もうちょっと話してください。

織田憲嗣氏

これは私が奉職しておりました東海大学の体育館で「1000 脚展」という展覧会を2回やりました。IFDA に合わせて。その時の様子です。私自身もこれだけまとまった椅子を見るのは初めてでした。遠く鹿児島からも福岡からも、随分沢山のお客さんが見えになりました。次、お願いします。これは織田コレクションという小さなパンフレットがあるんですけど。織田コレクション協力会が出してくれました。その中に入ってるワンカットです。はい、次を。これはフィンランドのガラス工芸の銘品ですね。ヘルシンキのガラス・ミュージアムにこれらを全部、永久展示されております。本当に美しいモノです。次、お願いします。これは皆さんご存知かと思います。イッタラ・バードのいろいろですけど。今、130 体以



上も東川町に全部寄贈しました。これは旭川美術館でやったデンマークデザイン展ですね。何年か前にやりました。これはドイツのバウハウスで考案されて、今ネフというドイツの知育玩具の有名なおもちゃのメーカーがあるんですけども、そこで発売をされたモノですね。実際にデザインされたのは 1920 年代です。それが未だにこうやってちゃんと商品化されて、知育玩具として売られているということです。

織田憲嗣氏

これはエンツォ・マーリ。イタリアのエンツォ・マーリがデザインした系のこで全部引いたモノで、これは樹脂製のモノで木製のモノと二通り、ツータイプあるんで全部で4セットありますね。日本の木工作家がこれに似たことをやってますけれども、これほど高度なパズルのモノは無いですね。はい。次、お願いします。これはリサ・ラーソン。スウェーデンのまだご存命なんですけれども、リサ・ラーソンのモノで、私が見た頃に現行品としてこういうモノを買ったものですね。

デフォルメの仕方も本当に綺麗



ですよね。はい。次、お願いします。以上です。木製のおもちゃから家具キャビネットに至るまで。あるいはフォトライブラリーも数千カットとあります。椅子の原寸図面であつたりとか、専門書とかありとあらゆるものを、今、研究のために集めて参りました。これをなんとかこの地域で活かしたいと思っておりますので、ぜひ一般の方にご支援いただければと思います。ありがとうございました。

渡辺直行氏

はい、喜多さんと織田さんありがとうございました。

ここからは冒頭に申し上げたように、2019年に旭川がユネスコの創造都市ネットワーク・デザイン分野で認定を受けたということを踏まえて、少しこのデザイン都市についてお話をしたいと思います。これが、左側のマークはいろんなところで皆さんご覧になったことがあるかなという風に思うんですけれども、ユネスコのマークですね。一般的に知られているのは世界遺産とかということで、知床が

このユネスコの世界遺産に認定されたとかというようなそういう話題もありましたけれども。パリに本部があります。

このパリに本部があるユネスコはですね、確か2004年ですね、新しくクリエイティブ・シティーズ・ネットワークという、そういうプログラムを立ち上げて。とにかく創造的な都市がネットワークを組もうやということで、世界中に声をかけて。7分野あるんですね。旭川はデザインですけれども、食文化とかそれから北海道でいうと札幌がメディアアート、

それから金沢なんかはクラフトとか、山形であれば映像映画です。文学とか 7 つの分野があるんですね。世界中に今、この創造都市ネットワークに関連してる都市が 295 あって、その中にデザイン都市が 43 あるということになるんですけれども。そのユネスコ創造都市ネットワークのデザイン都市に旭川も仲間入りをさせてもらった。

旭川がデザイン都市になった 2019 年にはベトナムのハノイとかですね、タイのバンコクなんかデザイン都市になってます。この 43 あるデザイン都市の 4 割ぐらいがその国の首都なんですね。先程のお話にあった韓国のソウルもデザイン都市ですし、中国でいえば北京がそうだし、中国は実は北京・深圳・上海・武漢と 4 つあるんですけれども。世界の名だたる都市の仲間入りが出来たということで良かったなという風に思っています。これはユネスコの創造都市ネットワークのサイトから拾った画なんですけれども。たくさんあるんですけどね、右側の真ん中に旭川。冬まつりの氷像ですかね、写真が載っています。

実はこのユネスコの創造都市を目指そうということを、言い出した張本人が私なんですけれども。世界のデザイン都市って先程もお話したように錚々たる、旭川も大したものなんですけど 錚々たる都市が多いですね。それこそ人口が 1000 万人とか 2000 万人とか。日本では神戸においても、あるいは名古屋にしても、非常

に人口の大きな経済力のある都市ですよ。それに比べると旭川が果たして本当に申請して通るのかなという感じがしていたんですけどね。でもよく考えると我々には非常に豊かな誇るべき自然に恵まれているなという感じがして、それに加えて冬は寒いんですけど、これからもずっと冬になるわけですけども。冬は寒いんですけども、明瞭な四季があって、非常に豊かな自然をいろんな意味で満喫することが出来る。それがなんといっても我々の誇りかなという風に思っているんですね。

私は先程、司会の方からご紹介ありましたように、もう 50 年近く家具を作っているんですけども。どうして旭川で家具が作られるようになったかという大きな理由というのは資源があったからですね。資源立地型の産地だった。とりわけ広葉樹が非常に豊富だと。今でもそうなんですけどね。日本の広葉樹の 27 パーセントは北海道にあるって言われていて。実はいま皆さんお座りの椅子もこれは旭川製なんです。これは旭川の周辺のタモ材で作ったんですね。ほぼ機構の部分も含めて ほぼ 100 パーセント旭川製なんです。そういう豊かな木材資源を背景に、100 年以上前に旭川家具ってスタートしてるんですね。

昔、(スライドの) 右側、相当古い写真なんですけれども。相当太い木があったんですね。四角くしてもこれぐらいですからね。多分、樹齢 200 年のナラ材とかが

て、そんなのもあったのかなと。さすがに今は太い材料は昔切って売っちゃったんで海外になんか。さすがに太い材料は無いんですけども、ただ量としてはまだまだ沢山あるんですね、それを生かそうと。

これは林産試験所の隣に出来たんですね。通称北森カレッジ、林業従事者を育成する施設として学校が出来た訳ですけども。(スライドの) 左の下はですね、研修授業を受けてるところですね。右の下は中川町のタモの、ヤチダモの林です。こういう資源を生かして、あるいは林産の技術で製材にされた材料を使って、私共は旭川家具は、今は脚モノと呼ばれる椅子・テーブルを中心とする家具を生産する地域になったんですけども。他の日本の家具産地もそうであったように、旭川もタンスの産地がだったんですね。婚礼 3 点セットとか 4 点セットとか。和ダンス・洋ダンス・整理ダンスとかね。ところが時代が進むにつれて、あるいは生活様式が変わるにつれて、タンス皆さん買わないですよ。今あんまりね、和ダンスとかね。だからその時代が変わるに従って、だんだん旭川家具も売れなくなっちゃったんですね。それに追い打ちをかけるように中国とかタイとか、周辺の近隣の新興工業国が家具を作り出すようになって、日本の家具産業というのは衰退してしまうんですね。規模的に言うと旭川は最盛期の 3 分の 1 ぐらいの生産高となってしまっているんですね。でも

先程、喜多さんのお話もありましたように 1990 年から IFDA という国際家具デザインコンペをやって、国内外のデザイナーとネットワークを作ったりとか、あるいはその他にも様々な形でデザイン活動をして、デザイナーと知り合って、デザインの力によってタンスの産地からシンプルでモダンで質の高い家具が作れる産地に移行できたということなんですね。

私共はそんなことで日々、そのモノを作る、家具を作る中でデザインの力というのを痛感してるものですから、であればデザインを他の産業の皆さんにも旭川全体にも広げたいなと、そんな思いがあったて市丸ごとデザイン都市になってしまおうじゃないかっていうことで、仲間の皆さんと旭川市に働きかけて、デザイン都市に入りたい、なりたいということなんですけども。

先程お二人の話の中に、日本って何かデザインがあんまり進んでいないような、そんなお話があったかなという風に思うんですけども。でも一方では日本は世界に冠たる伝統工芸があったりとか、日本の美だとかものづくりだとか、世界に誇れる様々なことがあると。それをもっともっと暮らし産業に生かすべきだという風に思うんですね。

(スライド) これは今お話した国際家具デザインコンペ IFDA のですね、本当は去年だったんですけども去年出来なかったんで、今年のシンボルマークなんですね。これが左から一等賞、二等賞、三等

賞ということになるんですけれども、こういう審査員にですね、審査をしていただいて。

それから 2015 年からですね、旭川デザイン・ウィークっていうイベントをやってるんですね。その前は実は旭川家具の産地展で言ってたんですね。60 回やったところで旭川デザイン・ウィークという名前を変えてですね。これは毎年やるんですけれども、家具の言ってみれば見本市だったんですけれども、でも旭川がデザイン都市になった、あるいは目指そうという中でですね。もっと仲間を募ろうという事で、今年は拡大デザイン・ウィークというか、家具だけでなくて食だとか、機械・金属だとか、それからあと市内の高校・高専、様々なところと一緒にイベントやりました。ホントだったらいろんな所で実際に体感できる体験できる、そんなイベントを目指したんですけれども。残念ながらコロナ感染症によって、ほとんどオンラインにせざるを得なかったということなんですね。6 月にはオンラインでのトークショーやる。今日お話をいただいた喜多俊之さん、それから喜多さんの左が隈研吾さんですね。それから林千晶さんとか。下のお三方は分科会の方。講演をしていただいたりとかそんなこと、オンラインでやったりとかしながら、とにかくいろんな産業分野に広げて、旭川をデザインで盛り上げようということに力を入れてるんですけれども。

ここで大事になるのが先程も織田さんのお話の中でミュージアムでイベントをやっても、なかなか日本は若い人来ないという話でしたけれども。もちろん我々のような年老いた世代が中心になりながら頑張るということも、もちろんそれはそれで必要なんですけどね。ネットワーク張ったり、あるいは経験があったりということなんすけども。でも、何といったってこれからの未来をつくるのは若い人ですからね。だから小学校・中学校・高校生の皆さんが、デザインの楽しさとかデザインの力だとかってことを実感してもらわないと、旭川が真にデザイン都市になる事はないんだろうと思うんですね。ですから今日もそうなんですけれども。私共、旭川デザイン・ウィークやる時にはもちろん著名な先生をお呼びして講演会もするんですけれども、もう一方では学生さん、生徒さん、あるいはもっと小さい子供さんを対象として、いろんなデザインでイベントをやってます。キッズデザインとか、それからデザインプロデューサー育成事業とか。これ旭川市でやってるんですけど、これから中核で動くデザインのリーダー達を育てようっていう事業が、昨年に続いて今年もこれから動くこともあったんですけれども。

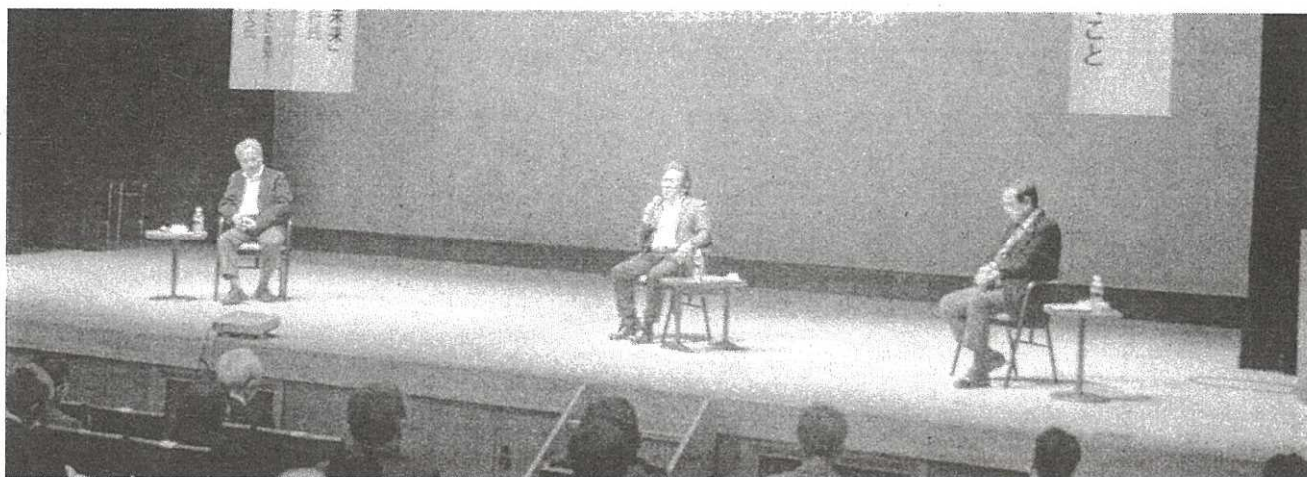
そんなことで旭川はとにかく豊かな自然をデザインに活かして元気になろうと。そこで大事なものは、私は最近、豊かという言葉あまり使わない事にしてるんですね。

渡辺直行氏

豊かになると量の拡大をしないといけないというイメージになっちゃうんで。デザインを活かして幸せになる。デザインを活かしてみんなが幸せになる。そういう世界を目指すべきなのかなという風に思っております。

というところで、一旦私の話はこれで終わらせていただいて。これから喜多さんと織田さんと3人でトークセッションしようと思っています。先ずはどうもありがとうございました。

ということで、3人それぞれでプレゼンテーションが終わったんですけれども、あと20分ぐらいかけて、デザインで旭川の未来をどう切り拓こうか、みたいな話をしたいなという風に思うんですけれども。先程、喜多さんから話があった暮らしをを素敵に、とにかく暮らしをデザインするところからやっぱり考えなくちゃいけないんじゃないかみたいなお話があったと。ちょっとそこら辺のお話をもう少しよろしくお願いします。



喜多俊之氏

ちょうど先程少し触れました様に、私が50年ちょっと前にイタリアのミラノに魅力を感じて3ヶ月だけ行こうと。そして暮らしを見てみよう、その前の年にツアーで半日通ったんですよ。あれ？ここはどうしてるんだろう。いわゆるその当時の日本とイタリアとの差を感じたんですね。何が起きているんだろう？それを見たいと思って行って3ヶ月あつという間に過ぎたんですが、その中で多くの一般の人の家に招かれる機会があり

まして。ああそうなんだと、暮らしなんだなと。日常の暮らしが少し日本より早く復興しているんだ。

日本の場合は木造の、大半の日本の大きな都会は木造が中心だったですね戦前。焼夷弾が本当に一夜にして、二晩ぐらいで大阪の方も焼け野原になるぐらい。そういうことであつという間に焼け野原になってしまつて。戦後というのはそれを半世紀かけてインフラを戻すということをやった時代だったので。

喜多俊之氏

イタリア・ドイツは同じ境遇にありながら、そんなに焼け野原にならないで、つぶれた所の補修とリノベーションだけで街が再興されていって。特に家の中は、前の家を暮らしやすい時代がやってきましたからそういう風にリノベーションの時代です。そこのインテリアを素敵にしてという事で、みるみる家具産業とか先程素敵な北欧のガラスとか見せていただきましたけど、ああいうモノをやはり夢のモノですから、家の中に入れて入れて。

家というのはまさに暮らすということじゃなくて、人生の舞台であり自分達だけでなく、そこに遊びに来る人達やら親戚やらいろいろな人達に来てもらって、その代わりに呼んでいただいて。というそんなものすごい勢いで 60 年代後半 70 年代は競争したんですね、暮らしの競争。そこにももちろん教育も入ってましたから、そういうようなことで、私もお世話になった家なんかで大学受験生がいたんですけど、上手に勉強しているんですよ。姿を消すけど上手に姿を消して、常に客の所に来て自分も楽しみながら勉強してる。ああそういうこともあるんだなということで、いわゆるバランス良く過ごしているんだなという印象で一旦帰りまし

て。もう一度何か知り合いが向こうのデザイン事務所が探しているんだけど来ないということで、それで行く事になったら、明日からおいでよって事になって。それ以来メンバーみたいに行ったり来たり。今回、コロナの事で 2 年ぐらい行けてないんですが。1 年のうち、そうですねもう 7 回 8 回往復しながら、現地とこちらでデザイン活動をやっていたんですけどね。その中で先程もお話しましたように、暮らしの再生これを急がないと。それが人と人とのコミュニケーションを活性化したり、それから親と子との会話、それから高齢化の問題。全部がそういうところでうまくバランスの取りながら解決していくというのが、これからの方向かなというような感じたんですね。その中で住まい、今ある住まい、それからそこをより快適に時代に合わせてリノベーションしながら、かけがえのない人生を送るというような、そういう事が始まりつつあるんじゃないかと。始まらないといけないなというのを感じたんですね。そんな事で先程の映像をちょっと思い起こしていただきましたが、今アジアがまさにそっちへ一足飛びに走り始めているというのを、もう目を丸くして実は私なんか見てるところなんです。

渡辺直行氏

はい、ありがとうございます。次に織田さんに。織田さんはずっと椅子のコレクションをされてきた中で。今、旭川家具が置かれている状況を良いところ悪い

ところをちょっとお話をいただきたいという風に思うんですけどもいかがでしょうか。

はい、喜多さんの方のご質問と同じものが来るものと思っておりましてけれども、ちょっと変化球になってしまったので。旭川家具の方達には随分お世話になって、今日までやってこれたんですけれども。強いて問題点を挙げるとすれば、いくつかあると思うんですけれども、大きく分けて3つぐらい常々感じている事がございます。

一つはカンディハウスさんも一番大きいメーカーで、海外のデザイナーと協力しながら、非常にデザイン性の高いモノを作っておりますけれども、中小のメーカーがそれに追い付いてない。もっともつと外部のデザイナーと協力して、デザイン性を高めていく。技術はカンディハウスも小さなメーカーもほとんど変わらないと思うんですね。ですからそういうデザイン力を高めていくという事が一つ。

それからもう一つはこれはかなり重要なことなんですけれども、各メーカーのトップ、社長がデザイナーに引けを取らないぐらいの、デザイナーと同じぐらいの感性、デザインに対する理解力、こういうものを持つ必要があると思います。イタリアの家具メーカーのほとんどが、デザイナーとほとんど変わらないぐらいの理解力、感性ありますね、ほとんどのメーカーが。やっぱりそういうところで

ないとですね、ちょっと残念なお話を申し上げますと、IFDAで国際家具デザインコンペティションで入賞したのに、この地域でそれを商品化しなかったが為に、海外でそれを商品化されてしまってヒット商品になってしまった。つまり、そういう良いモノを審査員がちゃんと選んでいるのに、残念ながらこの地域の家具メーカーがその良さに気がつかずに、海外のメーカーがそれならばということで商品化をしてしまった。やっぱりこういう事はあってはいけないと思うんですね。

それから3つ目。これはあるメーカーの職人さんから聞いたんです。自分の所で作っている家具は本当に良いモノだと誇りを持って作ってたが、残念ながら自分の給料ではそれを買えないんです。という風に言われました。そのためにファストファニチャーの代表格みたいな所のモノを今使ってる。だけどすぐ壊れる。しかしながら、残念ながら自分にはそれを直す技術があるから、それを直しながら使っている。というなんとも切ない話を聞いた事があります。ですから、そういう職人さん、社員の皆さんの待遇改善というものもこれからはやるべきじゃないか。この3つが私は旭川家具の中の、僕が感じた問題点だと思っております。すみません、失礼なこと言いました。

良いところを申し上げますと、実は皆さんほとんどご存知ないんですけれども、旭川家具というのは世界一の家具のインフラが整った地域です。これは本当に胸を張って申し上げます。それは5つございます。道産材の集積地が旭川であるという事。こんな地域は日本中どこにも無いです。海外にもそんなに無いと思います。デンマークなんかは小樽オークの名前で北海道産のミズナラを輸入して、北欧の銘品の家具を作ってた訳です。そういう道産材の集積地であるということ。

それから人材の育成、教育機関、それから研究機関というものが、この狭いエリアに沢山あります。先程おっしゃった道立の林産試験場に併設された北森カレッジ。それから教育大もあるし、高等技術専門学院もあるし、それから旭川高専もあるし、旭川大学。今度、公立のものづくり大学が出来ますよね。それから研究機関としては市の工芸指導所をはじめ、建築の研究所とか様々な研究機関もあります。本当にこの狭いエリアに多分、世界的に見てもこれだけ沢山人材の育成機関と研究機関が、集中してあるところはないです。

それから3つ目はメーカーとか個人の工房、これは150以上あると思います。以前私が聞いたときには180ぐらいあるという風に伺ったんですけれども。それが旭川と東川町と東神楽町1市2町に、ほとんどそこに集中してあるわけです。こういう所は世界的に見てもございませ

ん。

それから1990年から始まったIFDA国際デザインコンペティション旭川。これが世界の感性をこの街に集めて来るという役割、仕組みを作ったんですね。それがもう11回目、33年。その準備期間を入れるとおそらく35年以上前からこういう仕組み作りをやってきた訳です。こんな地域も他にないです。それから最後に手前味噌になりますけれども、私が研究のために集めてきた研究資料というものが、デザイン・ミュージアムに多分匹敵するぐらいのものがあると思います。この5つの要素が全部整った地域というのは、家具産地で世界的に見てもこの旭川エリアだけです。これらのこの地域に住む者として、本当に自信を持って良いと思っております。

それからもう一つ良い点。旭川家具工業協同組合という組織があるんですけれども、ここの組合の結束力というのは凄いですね。日本には他に産地と言われる所がいくつかあって、私がいくつか回りましたけれども。他社の事をあまりよく言わないんですね、同じ地域で。だけれどもこの地域では何年間に一度、火事が発生することがあります。そうすると火事を出してしまうとそれまで受注していたものが納品できなくなります。そうすると家具組合のメーカーがすぐに手を挙げて、うちにはこの機械が空いてるから使ってくれとか、そんな風にして滞りなくちゃんと納品を済ましてる。

織田憲嗣氏

というのは何度かこの話も聞きました。
こういう組合組織の強さというのは素晴

らしいものだと思います。この2つです。

渡辺直行氏

はい、頑張ります。
次に、喜多さんには家具以外の部分で、
旭川が今日の次第ではあるんですけど

も、どんなカタチでデザインに力を入れ
たら良い。つくづくざっくりした話です
けれども。

喜多俊之氏

そうですね、私は関西の方ですけども。関西から来ても旭川の生活ぶりを傍聴して、外からしか見ていませんが、こういう気候的に寒い地域ですので暮らしというのは、どこよりも進んでいるように思うんですね。それぞれの家庭での間取りとか広さとかこういった少し今日いろいろ出ておりますデザインということ、生活者の人達がもう少しそれを上手に利用して、素敵な人生の舞台ですというのを即実行しようと思ったら出来る地域じゃないかなと思うので。ものづくりもそうですけど、それを使ってる様子それを市民がする事でそれを発信していくと、とても面白いことになるんじゃないかと。家具だけじゃなくて衣食住全部が

大きな発展をしていくし、結果的には子どもへの教育の問題、それから一人住まいの問題、それから若者たちのコミュニケーション、人々のコミュニケーションの問題の解消。そういうのが全部に結びついていきますから、これが即やろうと思えばできる街じゃないかなと、よそから見てるとそういう風に思いますので、ぜひものづくりとそれを末端に使えるその姿、それがマーケットなんです。それを成功させていって、自分達で見本を作っていたいただいてそれが日本に普及すれば、先程中国やらいろいろ見ていただいたが、決して負けない様な次の日本の姿が出来てくるんじゃないかなと思っております。

織田憲嗣氏

私も一つだけ。私は東川町でデザインスクールというのを過去60回以上開催して参りました。いろんな著名な方をお呼びしてお話をしていただいたんですけども。そのデザインスクールのコンセプトっていうのは、「暮らしを丁寧に」っていうのがキーワードなんです。つまり生

活というものを暮らしというものを、もっともっと第一に考えましょうという事です。北欧では女性の社会進出が非常に早かったんですね。そのために男性は家に帰ったら家事を分担するという事で、子どもも家事を分担します。ですから家族全員が生活者の視点を持ってる。

私もこちらに 8 年間単身赴任をして掃除、洗濯、炊事、すべて一人でやらざるを得なくなって、これは結果的に非常にいい経験になりました。いまだに掃除は全部私がやります。それからお風呂は家内が

入った後に入って、全部拭き上げをします。そんな風に男性がもっともっと暮らしの中に参画していくという事、丁寧な暮らしをしていく事が美しい暮らしに繋がっていくものだと確信しております。

渡辺直行氏

はい、ありがとうございます。もうほとんど時間がなくなっただんですけど、ちょっと私も話をさせていただきたいんですけれども。平成 1 年に世界で一番大きな会社っていうのはどこだったか皆さんご存じですか？ NTT なんですね。NTT と NTT ドコモ、世界で最大の会社です。平成 30 年に世界で一番大きな会社っていうのはアップルコンピュータだったんですね。平成 1 年は金融界から銀行が 50 位までで日本の銀行が 34 ぐらい入ってたんですね。トップが NTT だったと。平成 30 年は日本の企業がトヨタ 1 社しか入ってないですね。なぜ 30 年経ってアップルが 1 位になったか？というのはこれは大体皆さんご想像がつくと思うんですけど。もちろんスティーブジョブズがですね iMac なり iPhone を出したという事なんですけれども。スティーブジョブズというのはデザイナーなんですね。クリエイターでありデザイナーで。だからアップルのスマホの箱ってすごいきれいですよね、あんなきれいな箱って他に無いんですけど。箱のデザインまであんな巨大企業の社長が関わってるっていうぐらいデザインで伸びてきた会社なんですね。アッ

プルが創業したのは 1976 年なんですね。1985 年、ちょうど 10 年くらい経つとですね、従業員が 4,000 人で売り上げ規模が 4,000 億ぐらいの会社になったんですね。実はその頃、旭川家具がですね、そのアップルコンピュータの本社ビルの大会議室に会議テーブルを納めたんですね。幅が 2m でトータルすると長さが 13m のテーブルですから、間違いなくアップルの創業期には旭川家具で世界戦略を練ったはずなんですね。そう考えると捨てたものではないんだといつも思っているんですけどね。そうは言いながらもどうも日本全体には GDP も中国に抜かれてしまったし、自信を失って元気を失ってみたい感じがするんですけれども。でも、もう一方では世界に尊敬されている部分も沢山あるわけだし、これからだと思うんですね。少なくともデザインで地域を元気にしようなんて言ってる所はほとんどあまりありませんから、お二人のような先輩にサポートいただきながらですね、とにかく日本は旭川からデザインで元気になるんだ、という事になって欲しいというか、したいなという風に思っています。

渡辺直行氏

今日ご参加の皆さんにも、ぜひぜひ特に皆さんのお子さん達に今日の話をしていただいて、デザインて結構面白そうだとぞという話をしていただければ幸いかなという風に思います。勝手に私が司会役で最後の話をしてしまいましたけれども、司会進行があんまりうまくなくてまとまらない話だったかという風に思うんです

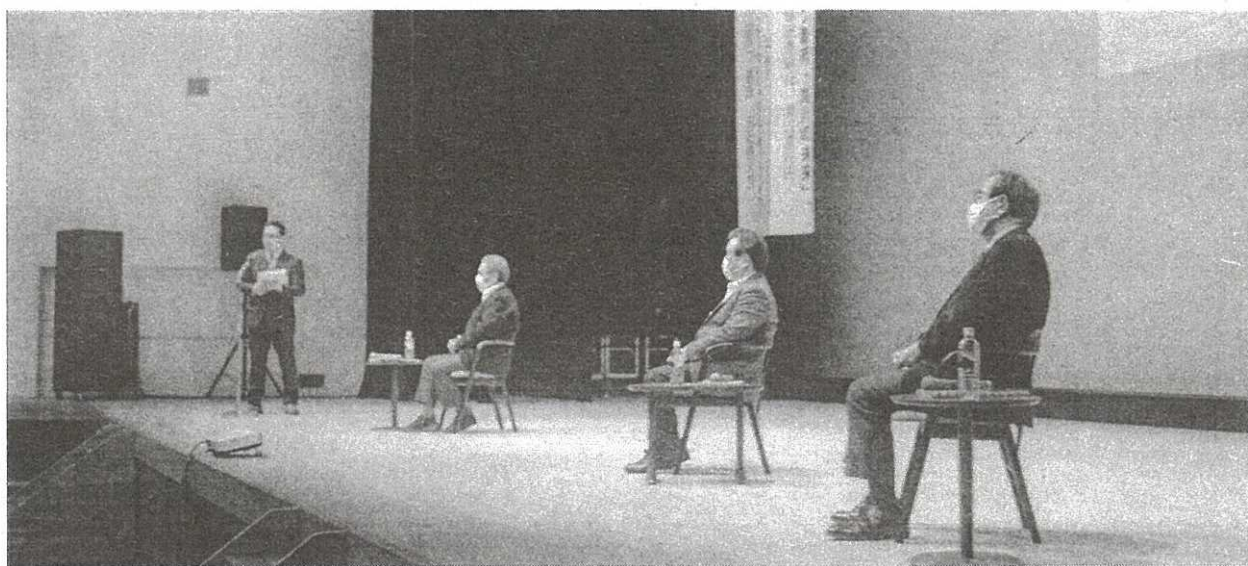
けれども。喜多さん、織田さん、本当に今日はありがとうございます。それからご参加いただいた皆様、本当にありがとうございます。今日のこの会がこれで閉会とさせていただきます。

話しだけです、話はこれで終わらせていただきたいと思います。本当にどうもありがとうございました。

司 会

喜多俊之様、織田憲嗣様、渡辺直行様、大変素晴らしいお話ありがとうございます。ここで参加者を代表して、旭川市

PTA 連合会副会長菅原達朗より講師のお三方に謝辞を述べさせていただきます。



菅原達朗

本日は喜多様、織田様、渡辺様、貴重なお話を聞かせていただき誠にありがとうございました。私は仕事柄お三方の話をお聞きするのは多い方なんですけれども、今日はユネスコデザイン都市・旭川の未来と題しまして、いつもと違うお話が聞けて私もとても嬉しかったです。

喜多様のお話では、デザインの登竜門

がここ旭川デザインウィークにあります。という話がとても感銘を受けました。デザインだけでなく家電のお話、各国のデザインウィークのお話など、多くの話を聞けてとても勉強になりました。

織田様のお話では、デザイン・ミュージアムが日本にはないというお話で、あと1400脚の椅子のコレクションが今に至

るまでのお話。良いモノを長く使う、SDGs などというお話がとても印象に残りました。

渡辺様のお話ではデザイン都市ネットワークのお話と、家具デザインに繋がるデザインを活かして幸せになっていくという話が言葉がとても印象に残りました。お三方のトークセッションでは、旭川の抱える問題点、旭川の良いところの話などとても勉強になるお話を聞けて、今日のこの会がとてもためになったなと私自

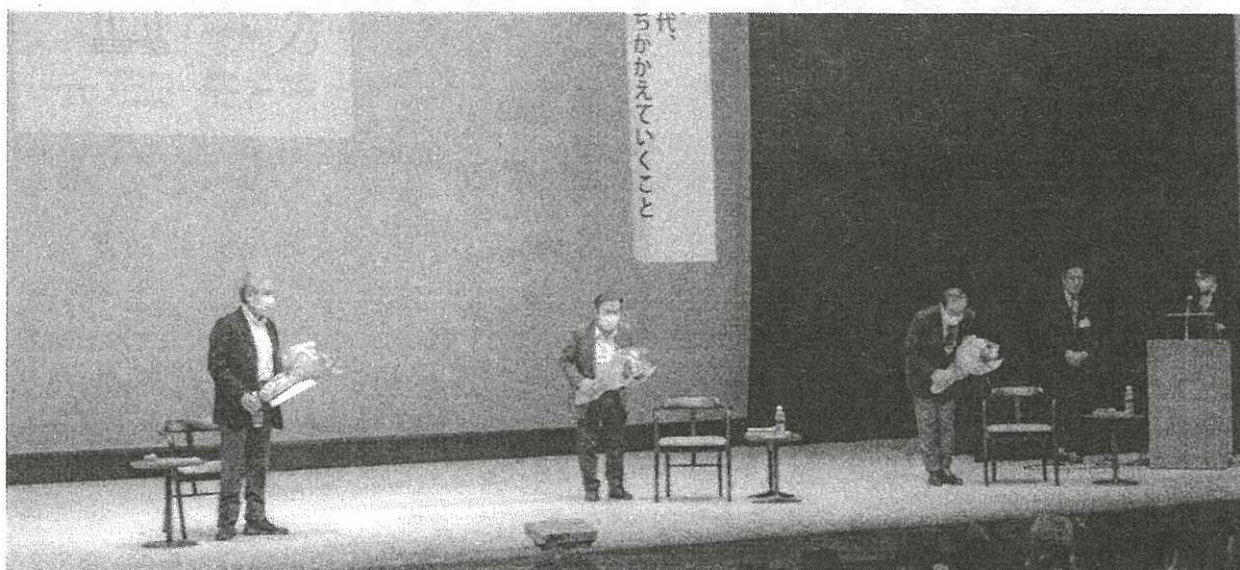
身も思っております。ここ旭川は先程からお話もあります家具の街でございます。これからもデザインを軸として、家具そして暮らしに関する事が発展することを願っております。

最後になりましたが、お三方の益々のご活躍とご会場にいらっしゃる全ての方のご健康ご健勝をご祈念申し上げ、簡単ではございますが主催者代表のお礼の言葉とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

司 会

ありがとうございました。ここで感謝の気持ちを込めて花束の贈呈をいたします。旭川市PTA連合会副会長・富樫真紀子。同じく副会長・橋本理恵。理事・上出さゆりでございます。それでは講師のお三

方が退場されます。本日の素晴らしい講演に感謝の気持ちを込めて盛大な拍手でお送りください。これで全体講演を終了いたします。



分科会記録

01

第1部会

消費者教育

悪徳商法に気を付けよう

02

第2部会

学校・地域の協働

地域学校協働活動 ～学校を核とした地域づくり～

03

第3部会

メンタルヘルス

【ココロとカラダが笑顔でつながる「ゆったりゆるヨガ」】
～コロナ禍の今だからこそ届けたい、ココロを整えるヨガの可能性～

04

第4部会

スポーツと心の教育

「ありたい自分」 ～なりたいじゃなくてありたい自分～

悪徳商法に気を付けよう

講	師	一般社団法人 旭川消費者協会 副会長 山下 みちよ 氏	
		劇団 「風」	
運	営・司 会	北星中学校 PTA	室谷 弥生
		北門中学校 PTA	青木 理浩
		六合中学校 PTA	富樫 真紀子
記	録	北鎮小学校教頭	松浦 修司

消費生活にはいろいろなトラブルがあり、その相談機関として旭川消費者センターがあり、その相談を旭川消費者協会が受託し、さまざまな相談を受けています。その相談経験から今回いくつかの例を挙げて話をいただきました。その内容を箇条書きで紹介します。後半は「こんな詐欺にはあわないでください」「こんなことには気を付けてください」という事例を「寸劇」で紹介していただきました。3つの演目の寸劇を通しての啓発内容をご紹介します。

1 講話

○私たちは、日常さまざまな契約を行っており、口約束でも、バスに乗ってお金を払う、ラーメンを食べに行って注文する等、契約の中で生活している。

○通販についてもたくさんの相談があり、スマホでの通販の相談が増えていて、これによるトラブルになるケースが多い。

○来年の4月から18歳で成人になる。

- ・高校生はスマホを多用してトラブルになるケースが多い。

- ・今までは、18歳は未成年であり、契約してしまっても親が認めていないから取消しなどもできるものもあった。

- ・未成年でも、ゲームの課金等、守られていない部分もある。

○ユーチューブに付いている広告を見て申し込み、最初は少ない金額でも、継続契約で定期購入だった場合もあり、金額を請求される事例もある。後で契約書を見ようとしても、見られない場合もある。



- 子どもによって金銭感覚は違うので、「お金は大切なんだな」など、親が子どもに金銭感覚を身につけることは大切である。また、子どもは親の行動を見て育つものである。
- ゲームの課金など、楽しい事だけにお金を使い、いつの間にか大きな借金（多重債務）に陥る場合もある。
- クーリングオフ制度があるが、この制度が適用されると、送料なども会社持ちになる。「何でも買い取る」という訪問購入はクーリングオフができるようになった。
- 旭川市でも訪問をして買い取りをする訪問購入をしている業者があるが、何でも買い取ると言っているが、何でも買い取ってくれないことも多く、最後には「何か貴金属あったら見せて」などと言うことが多い。

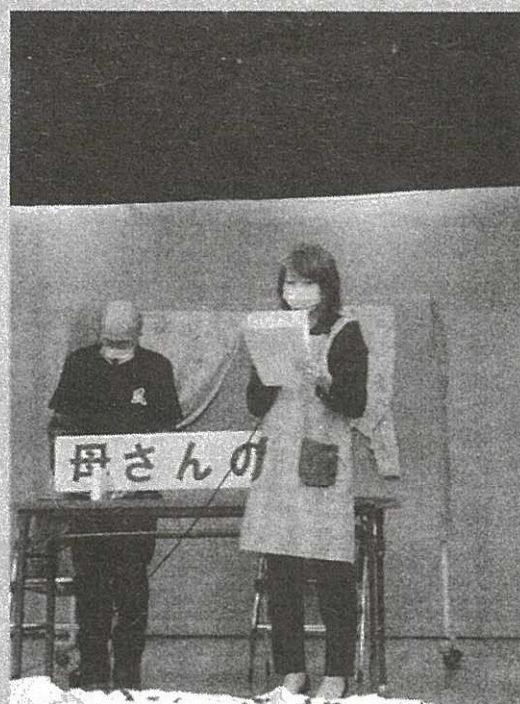
これ以外にも、いくつか例を挙げて話していただきました。「買ったけど、何かおかしいな」と思ったときは、誰かに相談してくださいと言っていました。また、消費生活センターも相談場所に利用してほしいと言っていました。

2 寸劇〈寸劇を通した3つの事例①～③〉

①『還付金がありますよ』

○啓発内容

- ・A T Mで還付金を振り込むことはありません。携帯電話を持ってA T Mに行くように指示するのは還付金詐欺です。みなさん、気を付けましょう。



②『スマホに利用請求メール』

○啓発内容

- ・民事訴訟、法的措置、裁判所からの呼び出し等、不安な気持ちにさせる文言を並べた不審な請求メールは無視してください。
- ・メールに問い合わせ先があっても決して電話をしないでください。不審なメールが来て不安なとき、迷うときは誰かに話してみることです。旭川生活消費相談センターでも相談に乗ります。



③『テレビショッピングの後悔』

○啓発内容

- ・通信販売の場合はクーリングオフ制度はありません。その事業者の定めた返品特約のきまりに従うことになります。通信販売の場合、実物を見ないで買うのでイメージ違いのトラブルが非常に多い。利用するときは規約を確認するなど、特に慎重に。また、店舗に行って服を買ったときなど、クーリングオフ制度は適用されません。



具体例をたくさん交えた講話や、実際の場面を想定した寸劇による啓発は、とても分かりやすく、参加者は最後まで楽しく参加できた分科会となりました。



第2部会 学校・地域の協働

地域学校協働活動 ～学校を核とした地域づくり～

講 師	旭川市地域学校協働活動統括コーディネーター (旭川市教育委員会社会教育部社会教育課主幹) 小嶋 紀行 氏		
運 営・司 会	中央中学校 PTA	長登 仁泰	
	愛宕東小学校 PTA	石田 良太	
	緑新小学校 PTA	工藤 瀧也	
	東陽中学校 PTA	近藤 美保	
記 録	近文第二小学校教頭	南向 信一	

1. 学校と地域の連携・協働が求められる背景 ～時代の変化に伴い学校と地域の在り方が変化

◇教育環境を取り巻く状況

- ・児童生徒数の減少
- ・子どもの規範意識への課題
- ・学校が抱える課題の複雑化・困難化

◇教育改革の動き

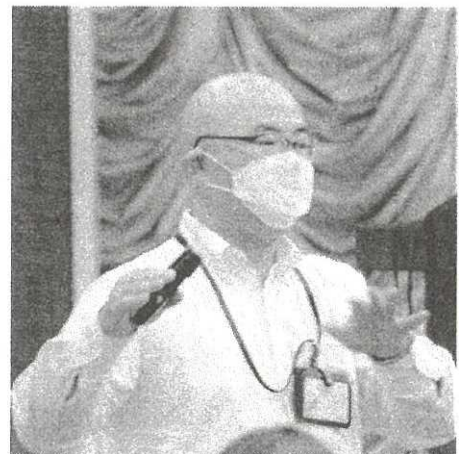
- ・「社会に開かれた教育課程」の実現

◇社会の動向

- ・少子高齢化の進行
- ・グローバル化や情報の進展
- ・地域社会のつながりや支え合いの希薄化による地域教育力の低下

◇地域創生の動き

- ・学校を核とした地域社会の活性化



○これからの時代を生き抜く力の育成（学校だけでは得られない知識・経験・能力）

○地域住民が自ら地域を創っていくという「主体的な意識」への転換

→学校と地域の連携・協働が必要

2. 地域学校協働活動

～地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動

◇地域協働活動とは・・・緩やかなネットワーク

◇地域協働本部の設置・・・本部の3要素：コーディネート機能、多様な活動、継続的な活動

◇コミュニティー・スクールと地域協働活動の一体的な推進

・・・自転車の両輪＝ビジョン、目的に向かって

：前輪（意思決定）が学校運営協議会　：後輪（行動機関）が地域学校協働活動

◇目標・ビジョンを達成するためには・・・例えば：少子高齢化であれば子どもが少ないことは問題（理想と現実のギャップ）であり、課題（ギャップを解消）ではない（→課題だとするとたくさん子どもを産むことしか解決策がない）

※ このあとの熟議体験に関する説明

「批判をしない」：批判があると良いアイデアが出にくくなる。

「連想と結合」：他人の意見を聞いてそれに触発され、連想を働かせ、あるいは他人の意見に自分のアイデアを加えて新しい意見として述べるというのが一つやり方。など

3. 「持続可能な社会の創り手づくりのために、学校・家庭地域でできること」 （熟議体験）

◇①目的：ビジョンの共有　②役割：ミッションの共有　③行動：アクションの共有
各グループ3～9名に分かれ熟議体験を行い、代表の1つのグループに発表していた

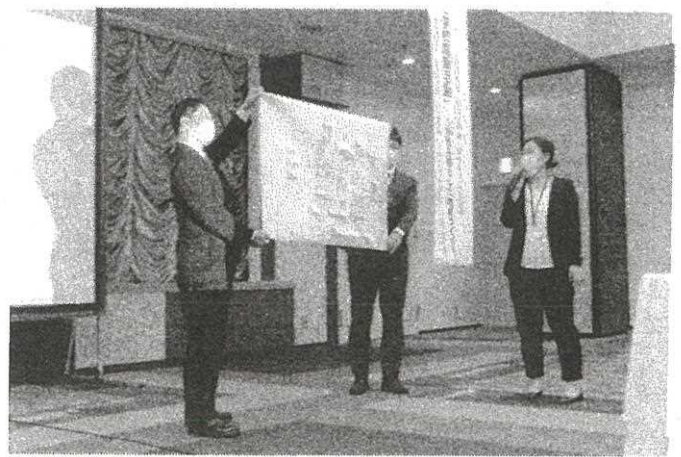
①めざす大人像（＝目標・ビジョン）・・・思いやりのある大人

②学校・家庭地域でできること（役割・ミッション）・・・学校・親・地域それぞれ

学校：道德教育の充実、ゲストティーチャー（例えば高齢者や障害者）の講演など

親　：親子の会話、見本となる大人になる（示す）

地域：学校－地域のつながり・・・見守り活動、ボランティアなど



4. 地域と学校の連携・協働を推進するためのポイント

◇地域とともにある学校への転換

- ・地域住民と目標やビジョンを共有し、地域と4. 地域と学校の連携・協働を推進するためのポイント

◇地域とともにある学校への転換

- ・地域住民と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子どもたちを育む

◇学校を核とした地域づくり

- ・学校を核とした協働の取組を通じて、地域の将来を担う人材を育成し、自立した地域社会の基盤の構築を図る

～そのために必要なこと

- 地域住民（子ども・大人）の当事者意識と学校職員の地域の担い手を育てる意識

→学校と地域のニーズや資源を把握する…そのためには

→コーディネーターが重要（社会教育士・社会教育主事・教育委員会職員）一体となって子どもたちを育む

◇学校を核とした地域づくり

- ・学校を核とした協働の取組を通じて、地域の将来を担う人材を育成し、自立した地域社会の基盤の構築を図る

～そのために必要なこと

- 地域住民（子ども・大人）の当事者意識と学校職員の地域の担い手を育てる意識

→学校と地域のニーズや資源を把握する…そのためには

→コーディネーターが重要（社会教育士・社会教育主事・教育委員会職員）

第3部会 メンタルヘルス

ココロとカラダが笑顔でつながる「ゆったりゆるヨガ」 ～コロナ禍の今だからこそ届けたい、ココロを整えるヨガの可能性～

講 師	Pranava Smile Salon	
	フリーヨガインストラクター 青木 こずえ 氏	
運 営・司 会	永山中学校 PTA	滝澤 尚史
	愛宕中学校 PTA	平澤 裕子
	明星中学校 PTA	堀江 裕樹
	東陽中学校 PTA	近藤 美保
記 録	近文第一小学校教頭	泉 宏史

1 ヨガについての説明

(1) ヨガへのイメージ

- ・アクロバット的なイメージをもつ人もいますが、そのようなことは全くない。
- ・「体が硬いから取り組めない。」と心配する人でも大丈夫。問題なく取り組むことができる。私（青木さん）も決して柔軟性が高かったわけではない。そんな人は、むしろ「自分には伸びしろがある。」と考え、無理なくその人に合った取組をしていくとよいだろう。
- ・「女性がするものというイメージがある。」「男性にとって敷居が高い気がする。」と考える人もいる。しかし、そのようなことを気にしなくてもよい。多くの人の心と体にとってとても良い活動である。

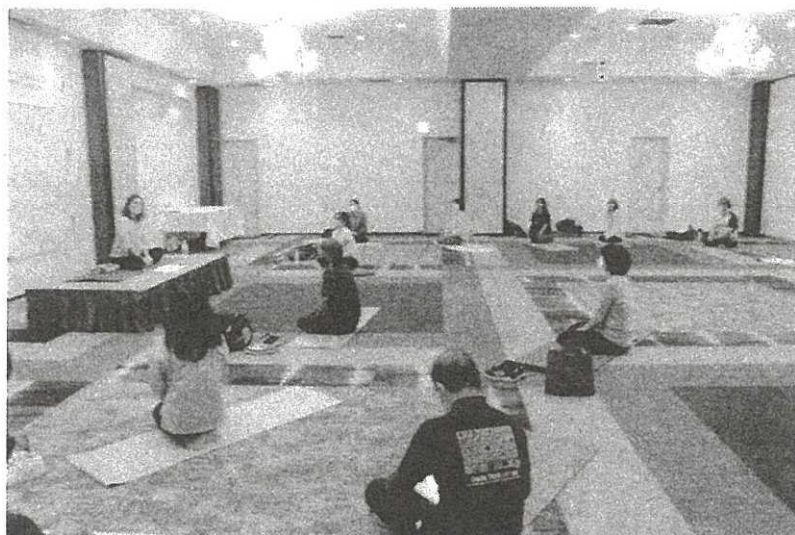


(2) ヨガの役割や効果

- ・現代はコロナからくる閉塞感もあり、多くの人が疲れていたり、緊張していたり、ストレスを感じていたりしている。そのような時には、今の自分としっかりと向き合うことが大切になる。そうすることで、心がいっぱいいっぱいの状態を開放することができる。ストレス社会に、ヨガはとても有効である。

※「マインドフルネス」の状態をつくることが大切

- ・ヨガでは呼吸を重視している。呼吸を安定させることが心を整えることにつながる。更に、心とリンクしている体を整えることにもつながる。
- ・ヨガの経験が全くない人たちに瞑想体験をさせると、8割の人たちが肯定的感想をもったという研究結果があるという。この結果から、ヨガの瞑想にはリラックス効果が期待できると言えるだろう。
- ・健康増進やフィットネス効果も期待できる。
- ・ヨガをすることで副交感神経が高まり、落ち着く効果がある。
- ・最近になって、様々なヨガの効果が認められるようになってきた。これからもさらに効果が広く認められる可能性があると言えるだろう。



(3) 広がる可能性

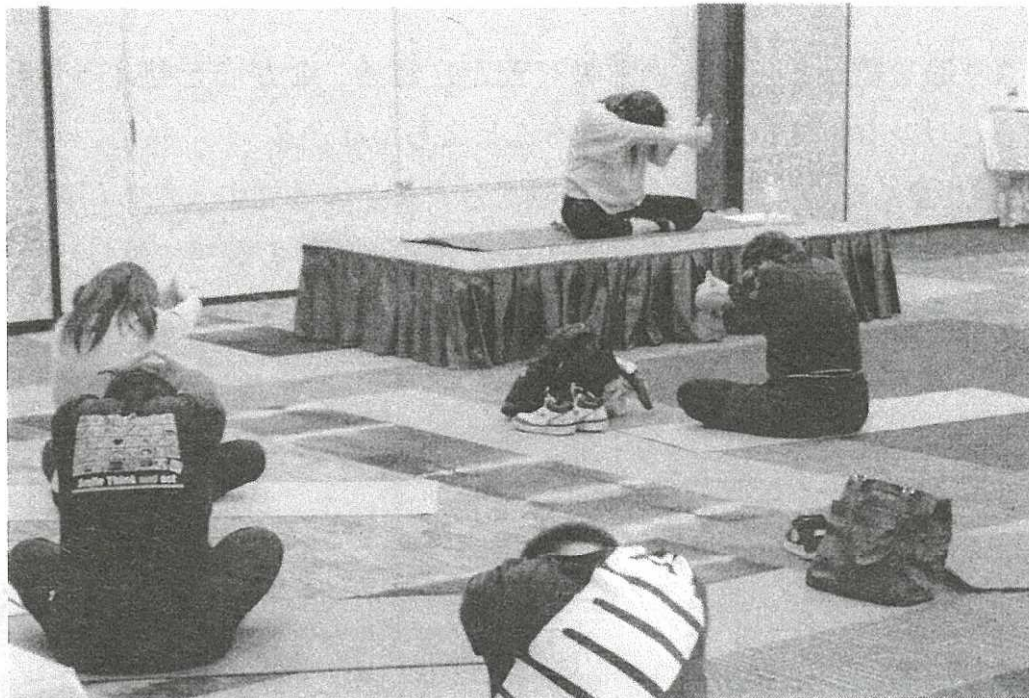
- ・最近の学校教育にはダンスが入っているという。心の疲れのある今こそ、ヨガも取り入れてみてはどうだろうか。休み時間や朝会などにヨガの呼吸法を取り入れることは十分可能に思う。実際に取り入れている学校も本州にはある。その結果、何となく落ち着くような雰囲気が生まれていたという。コロナ禍の今では、オンラインで5分のヨガを取り入れるなど工夫しているという。
- ・少しでも、ヨガの素晴らしさがみなさんの心に浸透していったらよいと思う。

2 体験の内容やその中の言葉

(1) 行ったヨガの一部

- ・呼吸法
- ・首ほぐし
- ・手首ほぐし
- ・肩や肩甲骨回し
- ・足指先ほぐし
- ・上体ひねり
- ・お尻叩き
- ・立ち木ポーズ 等

※1時間を超える体験を行うことができた。



(2) その中でのアドバイス

- ・座り方は胡坐でも正座でもよい。楽に過ごせるのが良い。ただし、「女性すわり」はあまり良くない。
- ・行っている最中には、基本的に息を止めない。呼吸を整えることはとても大切なので意識したい。
- ・決して無理をしないことが大切。自分への感謝の気持ちを持ち、自分をいたわりながら行う。
- ・行ってみると、それぞれの感想があると思う。今の自分にしっかり向き合うことで心や体が整っていく。

※呼吸と体の動きに関するアドバイスを、その都度いただいた。

第4部会 スポーツと心の教育

「ありたい自分」

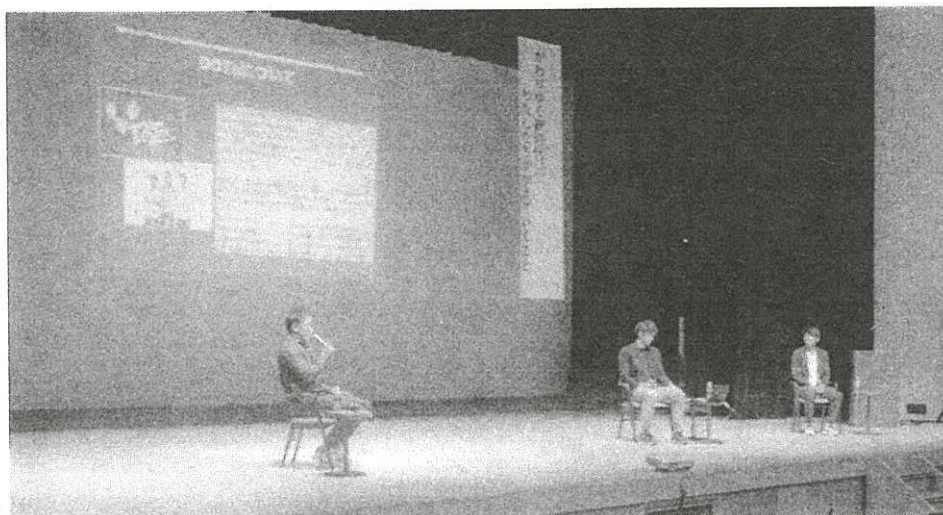
～なりたいじゃなくてありたい自分～

講	師	古田 史郎（ふるた しろう）氏	
		プロビーチバレー選手	
		株式会社 DOTs 代表取締役	
		一般社団法人 A-bank 旭川代表理事	
		辰巳 遼（たつみ りょう）氏	
		DOTs（ドッツ）	
		白石 啓丈（しらいし ひろたけ）氏	
		DOTs（ドッツ）	
運	営・司 会	緑が丘小学校 PTA	上出 さゆり
		西神楽中学校 PTA	千葉 美紀
		中央中学校 PTA	大宮 洋介
		末広小学校 PTA	橋本 理恵
記	録	広陵学校教頭	小田嶋 智一

1 講演

- ・DOTs（プロビーチバレーボールチーム）は法人会社化している。
- ・日本で他にプロはいない。
- ・オーストラリアオリンピック（ブリスベン 2032）を目指している。
- ・古田氏（函館出身）、辰巳氏（奈良出身）、白石氏（静岡出身）
- ・ビーチバレーはアトランタオリンピック（1996）から正式競技となった。
- ・オリンピックでは1番早くチケットが売りきれの種目である。
- ・東京オリンピックでは今までと違って、インドアバレー出身の選手ではなく、スタートからビーチバレーの選手だった国が活躍していた。
- ・前回オリンピックまでは40代の選手が多かったが、東京オリンピックでは20代が多かった。
- ・オリンピックで金メダルを取りたいのでビーチバレーに移った。（古田氏）
- ・まずは、ワールドツアーで優勝することが今の目標である。
- ・目標達成も「自分ならできる」と思っている。

- ・ ストイックだと周りから言われるが、目標から逆算して、やることをやっているだけ。
- ・ スポーツの可能性と聞かれると、「ポジティブな要素が多い」ところかな？（吉田氏）
- ・ 競技をやりながら、礼儀や良い習慣を身につけることができる。（辰巳氏）
- ・ 勝負で勝つことが楽しいと感じる。（白石氏）
- ・ スポーツを続けるにあたって環境は大切だと思う。
- ・ 僕は身長が伸びる時期が遅かった。でも、そこで腐らず「何ができるか」考えたし、指導者や先輩にアドバイスをもらった。多くの気づきをさせてもらえる環境があった。（古田氏）
- ・ 僕も身長を伸ばすため本などで調べ、実践しました。（辰巳氏）
- ・ 高校に入ると自分より背の高い選手ばかりだった。どうしたら試合に出られるだろうと考え、レシーブを頑張りました。（白石氏）
- ・ 「思い込みの力」が大切だと思います。できない理由を探さないこと。自分ではできる、そのために何ができるか考える。これが大切です。
- ・ 意地っ張りであり、負けず嫌い（勝ちたいより、負けたくない）がスポーツ選手には多い。
- ・ 子供の頃は「何も考えていないとき」の方が結果が出ていたような気がします。
- ・ 僕たちは試合の結果よりもやってきたことが出せたかどうかを大事だと思っている。
- ・ 子供をその気にさせてあげる。思い込ませてあげることで伸びるし明るくなる。
- ・ 古田選手は好きな物には凄い知識を持っているが、興味の無いことは全く知らない。（辰巳氏）
- ・ 運動に関してできないことは無いと思っている。時間はかかってもできると思っている（古田氏）
- ・ EQ（心の知能指数）が注目されているのをご存じですか？
- ・ 社会に出たら IQ の高さよりも EQ が大切だといわれています。
- ・ 部活動は EQ を高めるのにとっても良い活動だと思います。
- ・ スポーツの可能性とは EQ を高める活動だと思います。そこから世の中が良くなっていくと思っています。



- ・学ぶことが多い部活動が今後無くなっていくと聞きました。競技力だけでなく教育者（先生方）だからこそ学ぶべき事が大きかった。今後はその分を我々が伝えなければいけないと思っている。

2 質疑応答

Q：競技をしている子供への親（大人）の接し方や声かけを教えてください～小 4 母より

A：良かったことは覚えていないが、自分は「なんで？」が多い子供だった。

A：安心できる言葉かけがいいと思います。

A：子供のことを考えて発していれば大丈夫だと思います。情報を与えつつ意欲の出る言葉かけをするといいと思います。

Q：たくさんの人の前でプレーするのは緊張しないですか？

A：しません。僕は見てもらった方がいいと思っています。試合よりも今の方が緊張しています。

Q：部活動内（特に個人種目）には目的意識が違う子が混在します。（上を目指したい子と競技自体を楽しみたい子がいる場合）上を目指したい我が子にはどの様に言葉かけをしていけば良いですか？

A：楽しみ方はそれぞれ違います。勝つことを楽しむ子もいれば、楽しいを続けその先に 勝ちがある子もいます。モチベーションの違いは団体競技にもあります。

A：その子のモチベーションを確認してみると「その気にさせる（勝ちたいと思わせる）」機会を何度も作ることが大事だと思います。

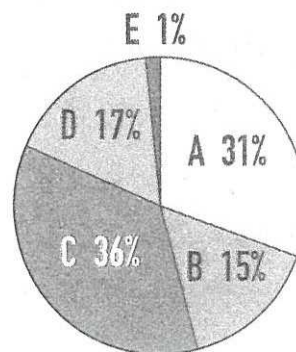


アンケート集計

01

本研究大会にはどの立場で参加されましたか

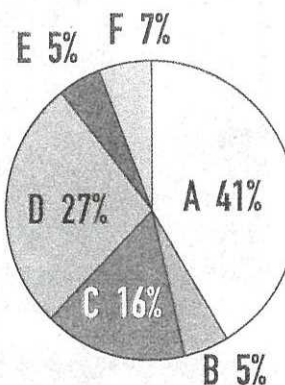
A	小学校保護者	▶	42 名
B	中学校保護者	▶	21 名
C	小学校教員	▶	49 名
D	中学校教員	▶	23 名
E	その他	▶	2 名



02

今回の参加動機は以下のどれに一番近いですか

A	研究大会の内容に興味を持ったから	▶	52 名
B	昨年も参加して良かったから	▶	6 名
C	友人・同僚に誘われたから	▶	20 名
D	単Pの役員をしているので	▶	34 名
E	大会運営の係があたっているから	▶	6 名
F	その他	▶	8 名



参加動機の内容

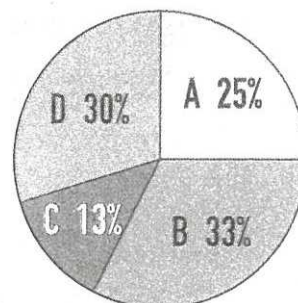


- 学校の PTA の振り分けで。
- 割り当て。
- 広報委員に所属しています。その取材として参加しました。
- P の参加が期待数に届かず管理職が参加しました。
- 町内会役員として市民委員会の防犯部長として第②部会に興味があった。
- 仕事の立場により参加。
- 校長として参加しました。
- 今年初めて校内で PTA 役員になったのでコロナで活動が制限されたこともあるけれど PTA 活動が変わる時期にもきていると思うので研究大会がどのようなものかみてみたかったのだ。
- 仕事の都合で他の PTA 活動に参加できなかったのが 1 番の理由ですが子どもがスポーツをやっているため部会のテーマに興味があったため。

03

参加された部会はどれですか

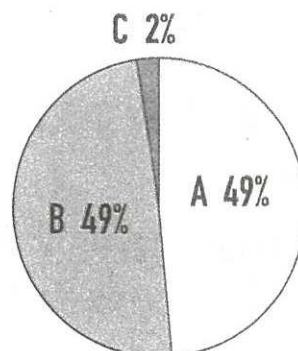
A	第1部会	▶	33 名
B	第2部会	▶	43 名
C	第3部会	▶	17 名
D	第4部会	▶	39 名



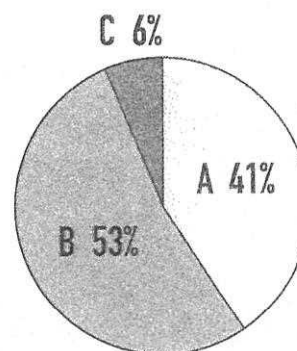
04

参加された部会はいかがでしたか (全体)

A	とてもよかった	▶	63 名
B	よかった	▶	63 名
C	やや改善を要する	▶	3 名
D	改善を要する	▶	0 名



A	とてもよかった	▶	13名
B	よかった	▶	17名
C	やや改善を要する	▶	2名
D	改善を要する	▶	0名



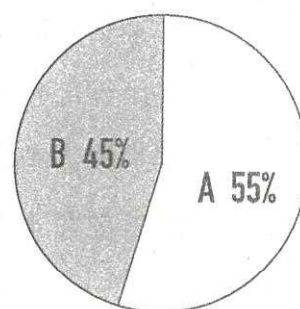
参加された部会に対して、感想、改善すべき点やご意見

- ・サン・アザレアのイスがひどい。腰が痛かった。
- ・子供が見て解りやすい。パンフレットなどがあったら嬉しいです。
- ・お話だけではなく、寸劇がよかった。
- ・講演は聞きやすく理解できたが、寸劇が…。もう少し練習した方がよいのでは。
- ・寸劇があり、とてもわかりやすかった。
- ・具体的な話がわかりやすかったです。
- ・普段行っている消費生活もきちんと考えなければならないことが再確認できました。クレジットでの買物も借金と考えるときちんと計算する必要があるのではないかと考え直しました。劇団風はわかりやすかったです。
- ・寸劇がおもしろかった。身近でもいろいろな事例があるので今以上に気をつけたいと思いました。
- ・相談の多い内容の詐欺情報が寸劇でリアルに知れて参考になりました。スタッフだけではなく、会場参加まであっておもしろかったです。
- ・学校でも取り上げて頂きたい内容でした。
- ・クーリングオフで勘違いしているところがあったことに気がつきました。
- ・最前線で対応されている方の貴重なお話をうかがうことができました。ネットゲームの課金にとどまらず、ネット上での無料など、契約内容を確認することの大切さを再確認できました。

部会に取り上げてほしいテーマ

- ・いじめ
- ・ICT 機器の基本操作と子供への家庭内ルール作り
- ・『スマホ脳』という本が話題にもなりましたが、今一度スマホの功害について勉強できる場があると嬉しいです。
- ・主権者教育、フリースクール等

A	とてもよかった	▶	23名
B	よかった	▶	19名
C	やや改善を要する	▶	0名
D	改善を要する	▶	0名



参加された部会に対して、感想、改善すべき点やご意見



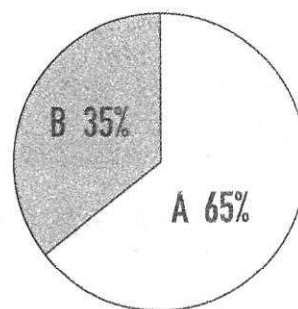
- ・地域学校協働活動について具体的に理解できた。
- ・理解が深まり大変勉強になりました。
- ・ラベルワークによるディスカッションはとても良かったです。
- ・参考になることがたくさんありました。
- ・子供を健やかにはぐくむ為には連携・ネットワークが大事である。
- ・有意義な話し合いの時間となりました。ありがとうございました。
- ・初めての参加で新鮮でした。
- ・いろいろな方と意見交流が出来て良かったです。
- ・良い熱議でした。
- ・地域学校協働活動の具体的な実践例をもう少し聞きたかったです。
- ・教頭2人、保護者3人、計5人のグループでした。熱議が出来てとても良かったです。
- ・もう少し取れたらもっと良い意見が共有できた。
- ・考え方や進め方が分かった。
- ・地域連携の意識が高まりました。

部会に取り上げてほしいテーマ



- ・PTAの働き方改革
- ・子供のコーチング

A	とてもよかった	▶	11名
B	よかった	▶	6名
C	やや改善を要する	▶	0名
D	改善を要する	▶	0名



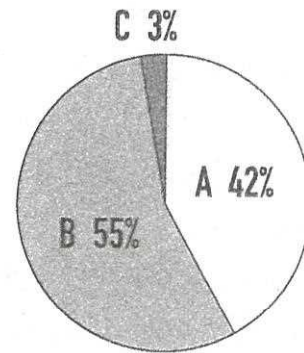
参加された部会に対して、感想、改善すべき点やご意見

- ・とても体がほぐれました。特に背中が薄くなった感じです。
- ・久しぶりに体を動かして楽しかった。
- ・体が軽くなりました。ありがとうございました。
- ・心と体も整いました。ありがとうございました。
- ・ヨガ体が軽くなりました。
- ・毎日忙しい中自分の有意義な時間が持てました。ありがとうございました。
- ・ココロとカラダを整える方法について一つのやり方（方法）を知る事が出来良かったです。
- ・指先を使うことの効能も知る事が出来て良かった。
- ・日頃の仕事や家庭のストレスが軽くなったような気がします。
- ・心と体がほぐれこちよい気持ちになれました。
- ・ヨガのイメージが変わりました。体験出来て良かったです。
- ・とてもリラックスできてよい時間でした。

部会に取り上げてほしいテーマ

- ・食育
- ・子供たちの未来について。
- ・食物も大切さや限りある資源について
- ・発達障害を取り上げてほしい
- ・手話・要項筆記・介護

A	とてもよかった	▶	16名
B	よかった	▶	21名
C	やや改善を要する	▶	1名
D	改善を要する	▶	0名



参加された部会に対して、感想、改善すべき点やご意見



- ・子供たちに聞かせてあげたい良いお話でした。DOTs の皆さん、頑張ってください
- ・文化、運動 etc 少年団活動をする我が子がいるので良かったです。とても楽しかったです。また聞きたいです！
- ・進行役（別の人）を用意して話を進行してもよかったのでは。
- ・「その気にさせる」ことができる人間になりたいと思いました。生徒たちにも聞かせたい内容でした。
- ・アスリートの立場から様々な考え方をきく事ができました。気持ちの持ち方が大切だと感じました。今後のかつやくを期待しています。
- ・3人が子どもの頃からバレーボールを一生懸命やってきたことが伝わった。スポーツは体を動かすことだが考えることが大事。子どもがいないのに子どもに対するアプローチの方法が勉強になった。
- ・とても話がテンポ良く楽しみながらたくさんメモを取りました。バレーボール経験者なのでわかりやすかった。
- ・一生懸命取り組んでいる人の話は元気をもらいました。明日からの英気になりました。ありがとうございました。
- ・講師の方々が一生懸命わかりやすく話をしよう（冗談を混ぜながら）するのが伝わってきた。最後まであきらめずに話を聞かせて頂きました。
- ・熱意が伝わって良かった。出来ると思ひ込むこと、気付きました。
- ・現役プロスポーツ選手が現在進行形で挑戦している姿をお話しして頂けて参考になる話しが沢山ありました。
- ・大会テーマや旭川を元気にすることにお話をつなげてほしかった。子育てにつながる話など。3名の方の活動を応援しています。

参加された部会に対して、感想、改善すべき点やご意見



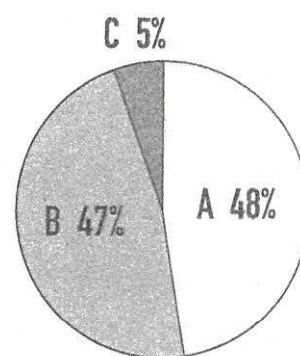
- ・ヴォレアスからどのような思いでどのようにしてビーチバレーの会社設立までに至ったかという新しい世界を開いた経験をもう少し聞きたかった。
- ・ポジティブ、思い込ませる、子どもたちにも自分にもためになる話だった。
- ・講師の熱い思いが伝わる話で子供たちにも聞かせたいと思う内容がたくさん含まれていました。
- ・子ども向けなら良いが、親として指導者として考えるとちょっと浅いかな…。
- ・司会進行よりも本人の経歴等は本人にお話ししていただいた方が伝わりやすく、内容（ありがたい自分）が入ってきたと思う。部会はとてもコミュニケーションが取れていたと思います。自分とちがう環境でお話が聞けて大変おもしろかったです。プロのお話は大変ためになりました。ありがとうございました。

部会に取り上げてほしいテーマ



- ・ほこれる街一旭川にしていくなために。思いやりの心のある子どもたちを育てるために。（取組など）
- ・メディアリテラシー
- ・他のスポーツの方と子供とスポーツ体験をしたい。
- ・地域がスポーツや文化的な活動（特に中学校は部活動を含め）どう子どもたちを成長させていけるか。
- ・旭川にゆかりのある著名人の方の話であればテーマは特にこだわりはないですが旭川の良さに気付くことができる内容がよいと思います。
- ・心と体、運動 etc 臨床心理的な立場から細かくていねいに子どもたちを理解、成長をサポート、育てていけるような視点。
- ・スマホ、SNS などの上手な使い方。いじめ問題など。

A	とてもよかった	▶	62 名
B	よかった	▶	61 名
C	やや改善を要する	▶	7 名
D	改善を要する	▶	0 名



全体講演に関して、感想、改善すべき点やご意見



- ・旭川家具が優れている（良い製品）であることが、よく伝わりました。
- ・なかなか内容が難しかった。もっと事前の情報が欲しかった。
- ・自分にとっては知らなかったことが多く、知見を広げることとなりました。
- ・保護者の視点の話があるとよかった。
- ・今まで自分がかかわったことのない分野だったので興味深かった。
- ・大変興味深い内容でした。ありがとうございました。
- ・デザインミュージアム、これが日本に、旭川にあったなんて、想像するとワクワクしてきました。身近なものから本物に触れる機会があるのは素敵ですね。
- ・もう少し時間が短いと最後まで集中して聞けたと思います。（すみません。最後少し疲れてしまいました。）
- ・とても良い話を聞けましたが、時間が長いように思いました。
- ・今までにないテーマで面白かった。旭川にデザインミュージアムができるといいですね。
- ・大変勉強になりました。
- ・旭川の良さを再確認できた。
- ・今、PTA が子供達の為に考えることから少しずれているような気がした。
- ・ユネスコデザイン都市に旭川市が登録された事は初めて知りました。未来の可能性を感じる事ができました。
- ・旭川の素晴らしいことが発見できてよかった。
- ・ユネスコデザインについて知る事が出来た。
- ・大変勉強になりました。全体講演、分科会と参加し大変充実した一日になりました。市P連の皆様ありがとうございました。
- ・旭川デザイン(家具)で世界的にも注目された年になってきたのは家具を通して「生活の質の向上」を大切にしてきた方々の努力があつてのことだと言う事を改めて感じました。

全体講演に対して、感想、改善すべき点やご意見



- ・旭川市への見方、改めたいと思いました。魅力発信!!
- ・講演会の時間が1時間くらいでもいい。3人のお話の内容は知らない事ばかりだったのが為になった。
- ・公演時間中何度もスマホをやってる方が居た。
- ・旭川家具に行く気になりました。良いものに子供たちに触れさせたいです。
- ・旭川市で旭川家具が有名と言う事は知っていたつもりだが、ここまで有名とは知りませんでした。日本で神戸・名古屋と同様にユネスコのデザイン創造都市に選ばれたことそのことを未来を生きる子どもたちに伝えることが必要と思いました。教員がそれを知って授業に取り入れる事（わが故郷の旭川に誇りをもって生きていけるようにする事）を整えていかなければ…と思いました。準備・コーディネート大変お疲れ様でした。オンラインでは無い講話・部会とても久しぶりでしたがとても有意義でした。ありがとうございました。
- ・旭川の素晴らしい部分を1つ知る事が出来ました。
- ・デザインを通じて旭川の良さや強み、課題を考えることができ有意義でした。
- ・旭川家具としてのデザインのよさとかこだわりなどを聞きたかった。
- ・本物を見るというのは（大切さ）どの世界も同じでそのような思いで仕事をしている人の話は説得力が違いました。とても刺激的なお話でしたありがとうございました。
- ・子育てを含めて私たちの住む旭川をほこれる街にしていきたいと思うと同時にデザインでくらしや街を元気にできればと感じました。非常によい公演でした。ありがとうございました。
- ・デザインにますます興味を持てた。旭川デザインウィークも参加したいです!
- ・デザインについて考える機会をいただきました。良い物を長く使うというお話が印象的でした。
- ・昨日デザインセンターを訪問したこともあり興味深く話を聞くことができました。
- ・デザインに関してのお話を聞くのは初めてで「旭川家具、は知っていたけどこれ程までに奥深さがあるとは思っていませんでした。予備知識がなかったので教育や育児に繋げて聞くには自分なりにかみくだく必要があった。
- ・ユネスコデザイン都市について理解が深まりました。ただ、旭川の未来…についてもっと若者たちへの提言などももっとお伺いしたかったです。
- ・デザインで地域を元気にという言葉が印象的でした。地域が自信をもてるものがあると活性化が促進すると思いました。
- ・デザインというものの見方や考え方が少し変わったので良かった。もう少し具体的な話しが聞けたら尚良かったと思う。(デザインというものの広さや漠然としたものを具体的に細かく)

全体講演に対して、感想、改善すべき点やご意見

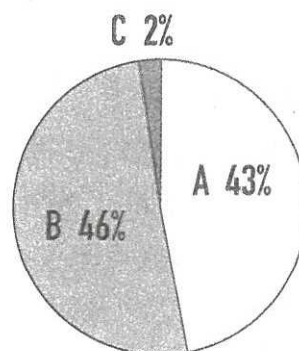


- ・デザインという見地から旭川の可能性を再発見できて大変勉強になりました。
- ・旭川の未来について展望のようなものがもてた。
- ・旭川における「デザイン」の考えを知る機会となったがレベルが高すぎて私の能力をこえていました。デザイン界の基礎的な知識や現状をはじめにもう少し知れるとよかった。
- ・織田先生の情熱には大変心に響くものがありました。他の方の話は違う世界の話聞いている様で現実味を感じませんでした。

06

全体を通して研究大会の運営はいかがでしたか

A	とてもよかった	▶	57 名
B	よかった	▶	61 名
C	やや改善を要する	▶	3 名
D	改善を要する	▶	0 名



運営に関して、感想、改善すべき点やご意見



- ・受付を地区ごとに
- ・会場が分散したのが少し不便でした。
- ・受付場所等どうしても蜜となる場所があり気になりました。
- ・感染対策を十分にされていて安心して参加できました。
- ・とてもスムーズでした。役員の皆様お疲れ様でした。
- ・デザインの大切さを再確認いたしました。とても良かったです!!
- ・部会の場所がわかりずらかった。
- ・コロナの状況下、開催にあたってのご準備、3 会場にわたる当日の運営、大変ご苦労があったことと推察いたします。役員の皆様お疲れ様でした。
- ・役員の皆様の運営がすばらしかったです。
- ・運営にかかわっていただけたみな様、大変ありがとうございました。
- ・もっとコミュニケーションの取れる形で行ってほしい。(全体会)

運営に関して、感想、改善すべき点やご意見



- ・進行がスムーズで良かったです。
- ・主催者の皆様お疲れ様でした。
- ・皆様が親切に対応してくださったので初めての参加で不安でしたが来てよかったと思いました。ありがとうございました。
- ・感染対策に気をつけていただいております。準備等おつかれさまでした。
- ・駐車場の案内があるとよかったと思う。
- ・コロナ禍の中での大会運営は本当に大変だったと思いますが素晴らしい大会でした。
- ・この状況の中、大会の運営準備は大変だったと思います。本当にお疲れさまでした。貴重な話を聞くことができ、勉強になりました。このコロナ禍で開催していただき、ありがとうございました。
- ・コロナ禍でとにかくできて良かったです。関係の方々たいへんお疲れさまでした。
- ・運営大変お疲れ様でした。ありがとうございました。
- ・旭川のコロナの状況が悪い中、感染症対応を十分にとって開催した事は良かったと思います。対面は必要と考えます。
- ・普段聞けない貴重な話を聞いて良かった。色々と考えさせられました。
- ・コロナ禍の中運営お疲れ様でした。
- ・市P連の皆様大変お疲れ様でした。
- ・有意義な会議でした。ありがとうございました。
- ・とても参考になりました。ありがとうございました。
- ・準備が大変だったと思います。ありがとうございました。

- ・土曜日開催はできないでしょうか？
- ・コロナの感染状況に応じて無理のない形での開催でよいと思います。
- ・駐車場を気にすることなく参加できる神楽（クリスタルホール）での実施に戻っていった方がよいと思います。
- ・これからも子供に親が伝えたいけど知識がない事をこれからも取り上げて、親・大人に知恵を付けて下さる様な内容を多くの方に提供して頂けたらと思います。ありがとうございました。
- ・緊急事態宣言は解除となりましたが、本市では新規感染者が発生している状況です。本校 PTA 役員からは遠隔等で可能なことは代わりの措置でもよいのではないかと。この場がクラスター発生のスタートとならないように”参加者の健康チェック”、”体調がすぐれない方の欠席に関わる呼びかけ”等があると安心して参加できるとありました。結果論だけではなく確かな P 連としての感染症対策があって実施できるのであればありがたいです。
- ・「日本の暮らし」を見直す働きかけの大切さを教育を通して伝えていくべきだと感じました。
- ・できれば部会も同会場でできる施設での開催をお願いしたいです。駐車場も使用できる会場だと嬉しいです。
- ・安藤会長の挨拶にもありましたように旭川市の良さや教育の素晴らしさを PTA 会員皆で確認できるような内容がよいと思います。
- ・12 時 30 分開始ではなく 13 時にすると動きやすい。13 時～16 時 30 分程度で計画できるとよい。
- ・駐車場の確保や移動について、あまりない方がよいのではと思いました。（第 4 分科会は移動がなくて助かりました）
- ・街中の実施だと駐車場の数が課題になると感じました。
- ・分科会はフリートークではなくコーディネーターをつけた上で進行を行った方が参加者にとって内容がわかりやすいものになったと思います。
- ・子ども食堂等、この旭川で頑張っている方達の話も聞いてみたい。いじめ（旭川で起きてしまった。とても残念な事です）について保護者・先生方・教育委員会・旭川市全部で取り組んでほしい。この問題についての話も聞きたい。
- ・講師への謝辞はもう少し短くていいと思う。

貴重な意見をありがとうございました。今後の参考にさせていただきます。

編集後記

コロナ禍 2 年目の開催となった第 61 回旭川市 PTA 研究大会は、274 名余りの皆様のご参加をいただきました。この研究大会は、旭川市 PTA 連合会では、最も大きい事業であり、研究大会を担う研修部は、年度当初より準備を進めてまいりました。

今年度の講師におきましては、2019 年に旭川市がユネスコの創造都市ネットワーク・デザイン分野で認定を受けたということもあり、デザイナーの喜多俊之様、椅子研究家の織田憲嗣様、あさひかわ創造都市推進協議会会長の渡辺直行様のお三方をお迎えしてデザインの事はもとより、今後の旭川についても多くお話ししていただきました。

講演後のアンケートでも多くの方より好評の声をいただき、大変実りある講演になったのではないかと研修部一同嬉しく思っております。今大会を終え、反省すべき点も多く上がりました。次年度に向けてより良い研究大会になるよう邁進してまいります。

最後になりますが、本事業に際し、多くのご支援、ご協力をいただきました関係各位、各関係機関、参加していただきました皆様、誠にありがとうございました。

研修部一同

第 61 回旭川市 PTA 研究大会 集録

令和4年3月31日

発行責任者 旭川市 PTA 連合会 会長 安藤英樹

研究大会運営委員会

倉本 格 克	岡崎 良 昭	村井 為 敦	本間 公 浩	安藤 英 樹
菅原 達 朗	富樫 真紀子	堀江 裕 樹	橋本 理 恵	今津 寛 介
伊藤 和津則	山添 宏 基	佐藤 英 春	青木 理 浩	室谷 弥 生
佐藤 貴 弘	川上 賢 司	西田 望 美	田中 一 也	上出 さゆり
千葉 美 紀	武井 智 明(OB)			

旭川市 PTA 連合会北部ブロック 旭川市立近文第二小学校 PTA

